

平成 30 年度文部科学省
職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進事業

**職業実践専門課程の質保証・向上につながる
専修学校教職員資質能力向上プログラム開発**

実証講座分析報告書

平成 31 年 3 月

一般社団法人 専門職高等教育質保証機構

目次

1 実施状況	1
1.1 登録者受講状況	1
1.2 月別アクセス状況	10
1.3 曜日別アクセス状況	11
1.4 時間帯別アクセス状況	12
1.5 曜日別・時間帯別アクセス状況	13
1.6 科目別アクセス状況	15
2 アンケート結果集計・分析	25
2.1 プロフェッショナルディベロップメント (A1)	25
2.2 カリキュラムデザイン (B1)	29
2.3 カウンセリング能力 (B2)	33
2.4 ファシリテーション (B3)	37
2.5 発達障害 (B4)	41
2.6 学習指導能力 (B5)	45
2.7 学級運営 (B6)	49
2.8 IT 活用教育実践 (B7)	52
2.9 教育課程編成委員会・学校関係者評価の運用 (C1)	56
2.10 説明責任と情報公開 (C2)	59
2.11 質保証の実務 (D2)	62

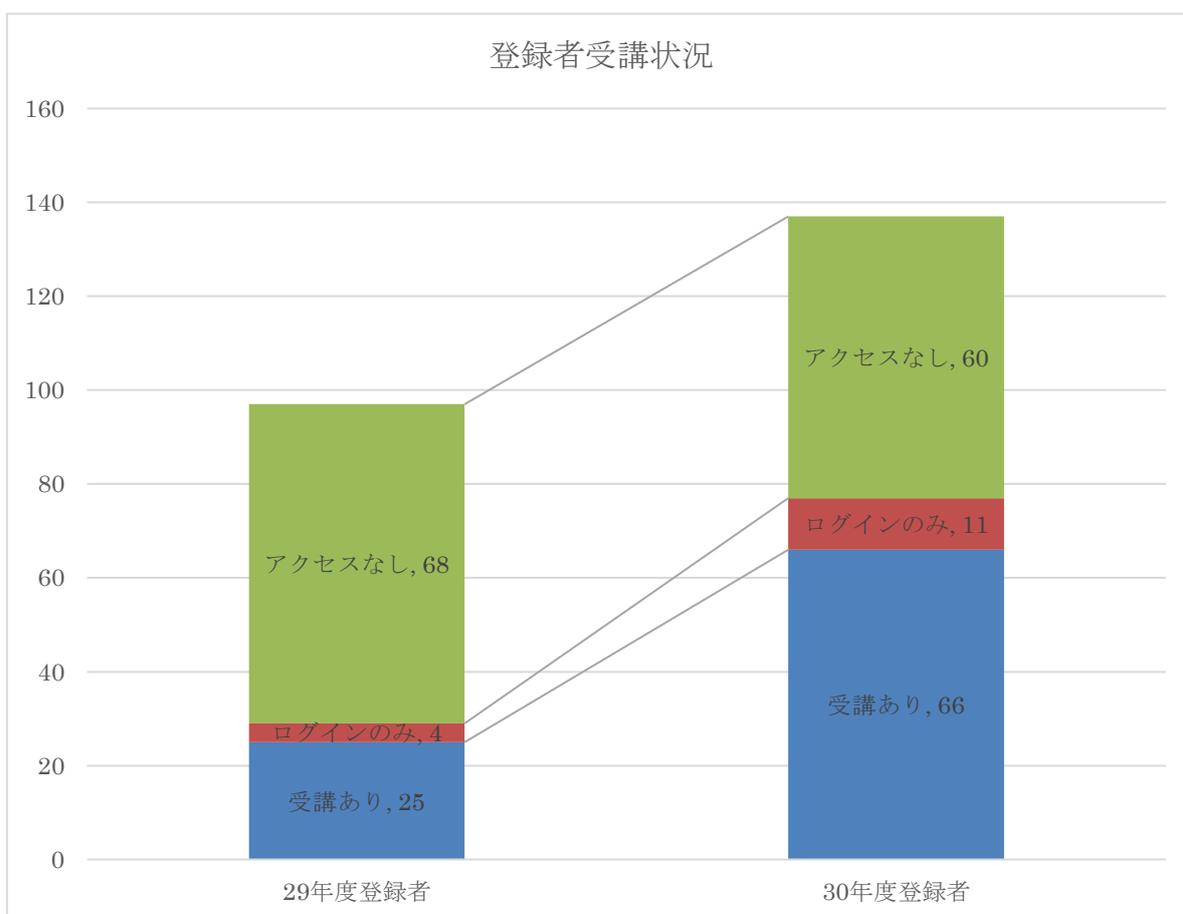
2.12 キャリアフレームワークに関する知識（E2）	65
2.13 全体アンケート	68
2.14 フリーアンサーのテキストマイニング	74

1 実施状況

実証講座は平成 30 年 8 月 29 日、昨年度登録があった受講者および実施協力校に在籍する受講者向けに開講した。また、平成 30 年度に新規受講申し込みのあった受講者向けには、平成 30 年 10 月 15 日に開講した。閉講は平成 31 年 3 月 8 日であるが、本書をまとめる上では、開講から平成 31 年 2 月 15 日までの受講データを使用した。

1.1 登録者受講状況

	受講あり	ログインのみ	アクセスなし	合計
29 年度登録者	25	4	68	97
30 年度登録者	66	11	60	137
合計	91	15	128	234



平成 30 年度は、受講者の数が前年度比 2.6 倍に増えた。アクセスなしの数はあまり変わっていない。

なお、承諾をとっていないので個人名や所属先、メールアドレスを割愛するが、受講者として登録された 234 名の区分、受講有無、都道府県は次のリストのとおりである¹。

No	氏名	区分	受講有無	所属組織	部署	メールアドレス	都道府県	備考
1		1	1				秋田県	
2		1	1				大分県	
3		1	1				大阪府	
4		1	1				大阪府	
5		1	1				大阪府	
6		1	1				神奈川県	
7		1	1				京都府	
8		1	1				京都府	
9		1	1				群馬県	
10		1	1				島根県	
11		1	1				島根県	
12		1	1				島根県	
13		1	1				島根県	
14		1	1				島根県	
15		1	1				島根県	
16		1	1				島根県	
17		1	1				島根県	
18		1	1				東京都	
19		1	1				東京都	
20		1	1				北海道	
21		1	1				北海道	
22		1	1				愛知県	
23		1	1				岡山県	
24		1	1				岡山県	
25		1	1				福岡県	
26		1	999				愛知県	
27		1	999				大阪府	
28		1	999				大阪府	
29		1	999				大阪府	

¹ 区分（1…29 年度事業からの登録者、2…30 年度事業からの登録者）、受講有無（999…受講なし、1 または 2…区分と同じ）

No	氏名	区分	受講有無	所属組織	部署	メールアドレス	都道府県	備考
30		1	999				大阪府	
31		1	999				大阪府	
32		1	999				大阪府	
33		1	999				大阪府	
34		1	999			—	大阪府	
35		1	999			—	大阪府	
36		1	999				大阪府	
37		1	999				大阪府	
38		1	999				大阪府	
39		1	999				大阪府	
40		1	999				大阪府	
41		1	999				大阪府	
42		1	999				大阪府	
43		1	999				大阪府	
44		1	999				大阪府	
45		1	999				岡山県	
46		1	999				岡山県	
47		1	999				岡山県	
48		1	999				岡山県	
49		1	999				岡山県	
50		1	999				神奈川県	
51		1	999				京都府	
52		1	999				京都府	
53		1	999				島根県	
54		1	999				東京都	
55		1	999				東京都	
56		1	999				東京都	
57		1	999				東京都	
58		1	999				東京都	
59		1	999				長野県	
60		1	999				奈良県	
61		1	999				兵庫県	
62		1	999				兵庫県	
63		1	999				兵庫県	

No	氏名	区分	受講有無	所属組織	部署	メールアドレス	都道府県	備考
64		1	999				福岡県	
65		1	999				福岡県	
66		1	999				福岡県	
67		1	999				北海道	
68		1	999				北海道	
69		1	999				北海道	
70		1	999				北海道	
71		1	999				北海道	
72		1	999				北海道	
73		1	999				北海道	
74		1	999				北海道	
75		1	999				北海道	
76		1	999				北海道	
77		1	999				北海道	
78		1	999				北海道	
79		1	999				北海道	
80		1	999				北海道	
81		1	999				北海道	
82		1	999				北海道	
83		1	999				北海道	
84		1	999				岡山県	
85		1	999				香川県	
86		1	999			—	埼玉県	
87		1	999				埼玉県	
88		1	999				埼玉県	
89		1	999				神奈川県	
90		1	999				神奈川県	
91		1	999			—	東京都	
92		1	999				東京都	
93		1	999				福岡県	
94		1	999				福岡県	
95		1	999				福岡県	
96		1	999				福岡県	
97		1	999				福岡県	

No	氏名	区分	受講有無	所属組織	部署	メールアドレス	都道府県	備考
98		2	2				愛知県	
99		2	2			—	青森県	
100		2	2			—	石川県	
101		2	2			—	石川県	
102		2	2			—	石川県	
103		2	2			—	石川県	
104		2	2				石川県	
105		2	2				岩手県	
106		2	2			—	岩手県	
107		2	2			—	大分県	
108		2	2				大分県	
109		2	2				大阪府	
110		2	2				大阪府	
111		2	2				大阪府	
112		2	2				大阪府	
113		2	2				大阪府	
114		2	2				大阪府	
115		2	2				大阪府	
116		2	2				大阪府	
117		2	2				大阪府	
118		2	2				大阪府	
119		2	2				大阪府	
120		2	2			—	大阪府	
121		2	2			—	香川県	
122		2	2				神奈川県	
123		2	2				群馬県	
124		2	2				群馬県	
125		2	2			—	埼玉県	
126		2	2				埼玉県	
127		2	2				埼玉県	
128		2	2				埼玉県	
129		2	2				埼玉県	
130		2	2				埼玉県	
131		2	2				埼玉県	

No	氏名	区分	受講有無	所属組織	部署	メールアドレス	都道府県	備考
132		2	2				埼玉県	
133		2	2			—	静岡県	
134		2	2				島根県	
135		2	2				島根県	
136		2	2				島根県	
137		2	2			—	千葉県	
138		2	2				長崎県	
139		2	2				長野県	
140		2	2			—	新潟県	
141		2	2				新潟県	
142		2	2			—	新潟県	
143		2	2			—	新潟県	
144		2	2				新潟県	
145		2	2			—	広島県	
146		2	2			—	福岡県	
147		2	2			—	福島県	
148		2	2			—	福島県	
149		2	2				北海道	
150		2	2				山口県	
151		2	2				東京都	
152		2	2			—	東京都	
153		2	2			—	東京都	
154		2	2				東京都	
155		2	2				東京都	
156		2	2				東京都	
157		2	2				東京都	
158		2	2			—	東京都	
159		2	2				東京都	
160		2	2				東京都	
161		2	2				東京都	
162		2	2				東京都	
163		2	2				栃木県	
164		2	999			—	石川県	
165		2	999			—	大分県	

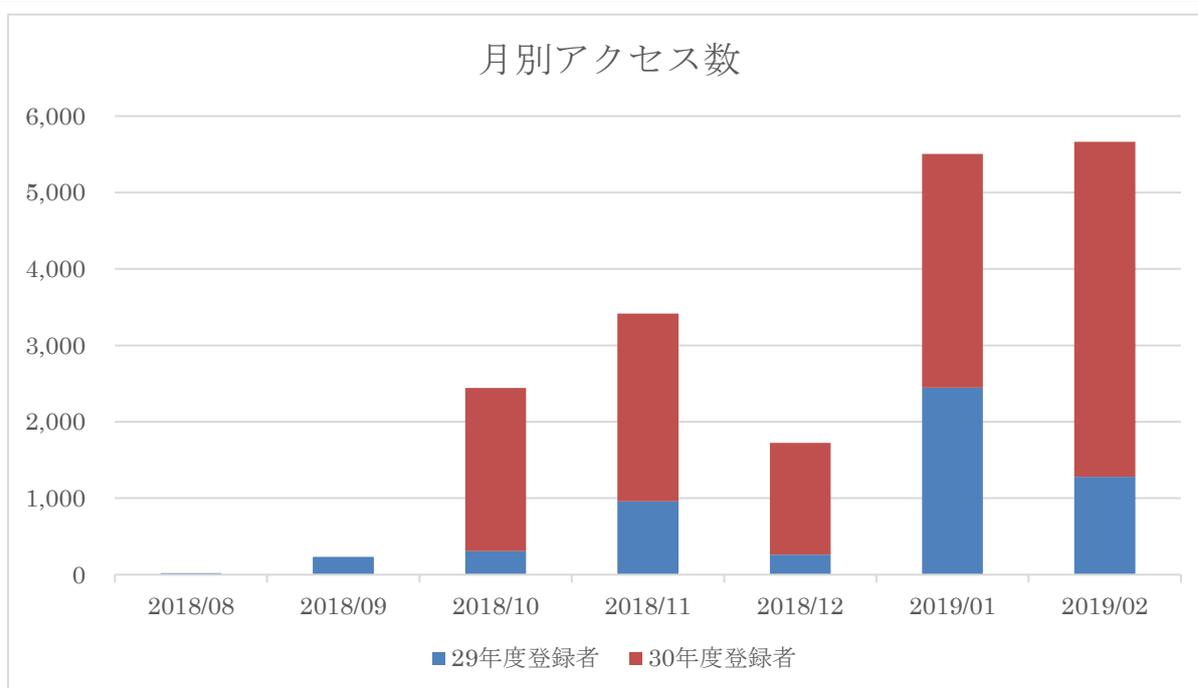
No	氏名	区分	受講有無	所属組織	部署	メールアドレス	都道府県	備考
166		2	999				大阪府	
167		2	999				大阪府	
168		2	999				大阪府	
169		2	999				大阪府	
170		2	999				大阪府	
171		2	999				大阪府	
172		2	999				大阪府	
173		2	999				大阪府	
174		2	999				大阪府	
175		2	999				大阪府	
176		2	999				大阪府	
177		2	999				大阪府	
178		2	999				大阪府	
179		2	999				大阪府	
180		2	999				大阪府	
181		2	999				大阪府	
182		2	999				大阪府	
183		2	999				大阪府	
184		2	999				大阪府	
185		2	999				大阪府	
186		2	999				大阪府	
187		2	999				大阪府	
188		2	999				大阪府	
189		2	999				大阪府	
190		2	999				大阪府	
191		2	999				大阪府	
192		2	999				大阪府	
193		2	999				大阪府	
194		2	999				大阪府	
195		2	999				大阪府	
196		2	999				大阪府	
197		2	999				大阪府	
198		2	999				大阪府	
199		2	999				大阪府	

No	氏名	区分	受講有無	所属組織	部署	メールアドレス	都道府県	備考
200		2	999				大阪府	
201		2	999				大阪府	
202		2	999				大阪府	
203		2	999				大阪府	
204		2	999				大阪府	
205		2	999				大阪府	
206		2	999				大阪府	
207		2	999				大阪府	
208		2	999				大阪府	
209		2	999			—	香川県	
210		2	999				香川県	
211		2	999				香川県	
212		2	999			—	埼玉県	
213		2	999				埼玉県	
214		2	999				埼玉県	
215		2	999				埼玉県	
216		2	999				埼玉県	
217		2	999				埼玉県	
218		2	999				埼玉県	
219		2	999				新潟県	
220		2	999				東京都	
221		2	999				東京都	
222		2	999				東京都	
223		2	999				東京都	
224		2	999				東京都	
225		2	999				東京都	
226		2	999				東京都	
227		2	999				東京都	
228		2	999				東京都	
229		2	999				東京都	
230		2	999				東京都	
231		2	999				東京都	
232		2	999				東京都	
233		2	999				東京都	

No	氏名	区分	受講有無	所属組織	部署	メールアドレス	都道府県	備考
234		2	999				東京都	

1.2 月別アクセス状況

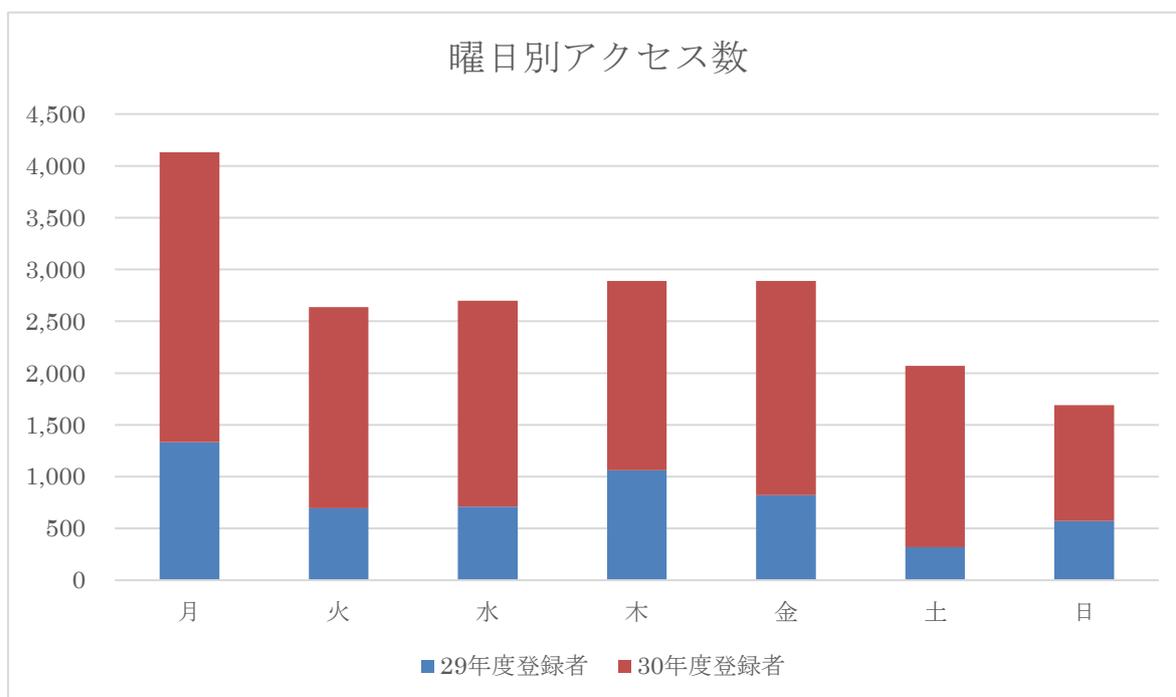
年月	29年度登録者	30年度登録者	合計
2018/08	21	0	21
2018/09	233	0	233
2018/10	308	2,133	2,441
2018/11	959	2,457	3,416
2018/12	264	1,462	1,726
2019/01	2,446	3,061	5,507
2019/02	1,282	4,380	5,662
計	5,513	13,493	19,006



12月を除けば、毎月アクセス数が増えている。特に平成30年度登録者は、順調にアクセス数が増えている。

1.3 曜日別アクセス状況

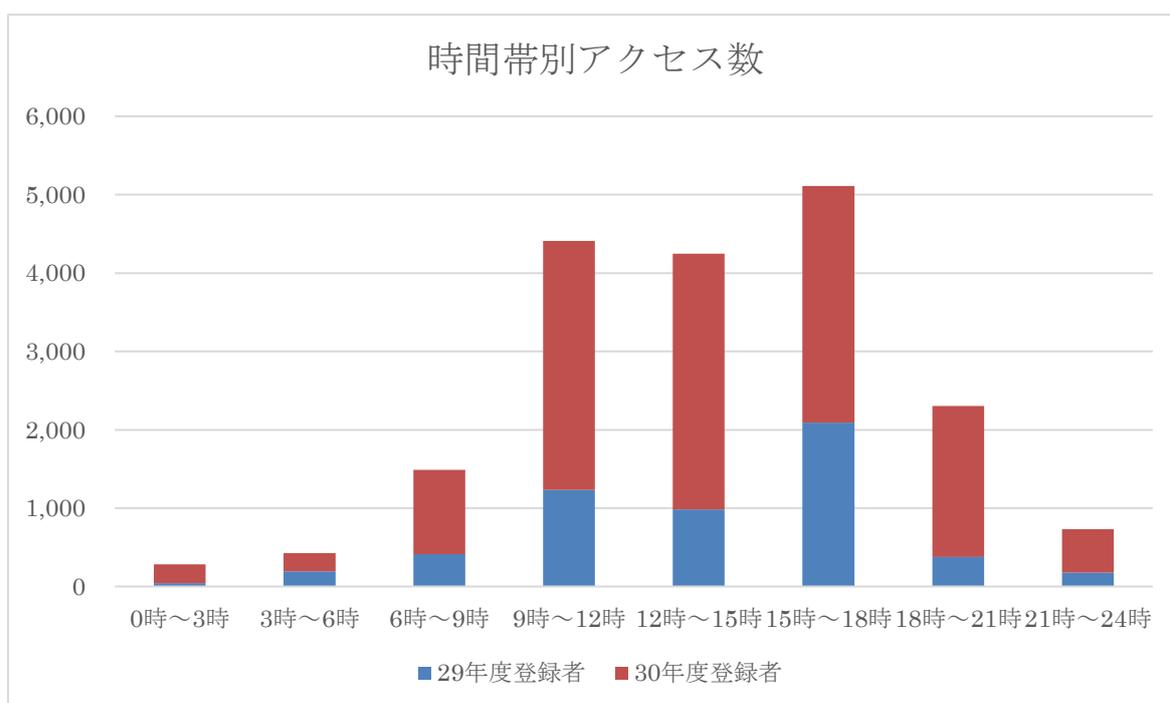
曜日	29年度登録者	30年度登録者	合計
月	1,333	2,799	4,132
火	696	1,940	2,636
水	710	1,989	2,699
木	1,063	1,827	2,890
金	821	2,069	2,890
土	319	1,751	2,070
日	571	1,118	1,689
計	5,513	13,493	19,006



月曜日のアクセス数が顕著に多い。

1.4 時間帯別アクセス状況

時間帯	29年度登録者	30年度登録者	合計
0時～3時	44	241	285
3時～6時	193	231	424
6時～9時	413	1,077	1,490
9時～12時	1,231	3,181	4,412
12時～15時	986	3,263	4,249
15時～18時	2,092	3,018	5,110
18時～21時	377	1,927	2,304
21時～24時	177	555	732
合計	5,513	13,493	19,006

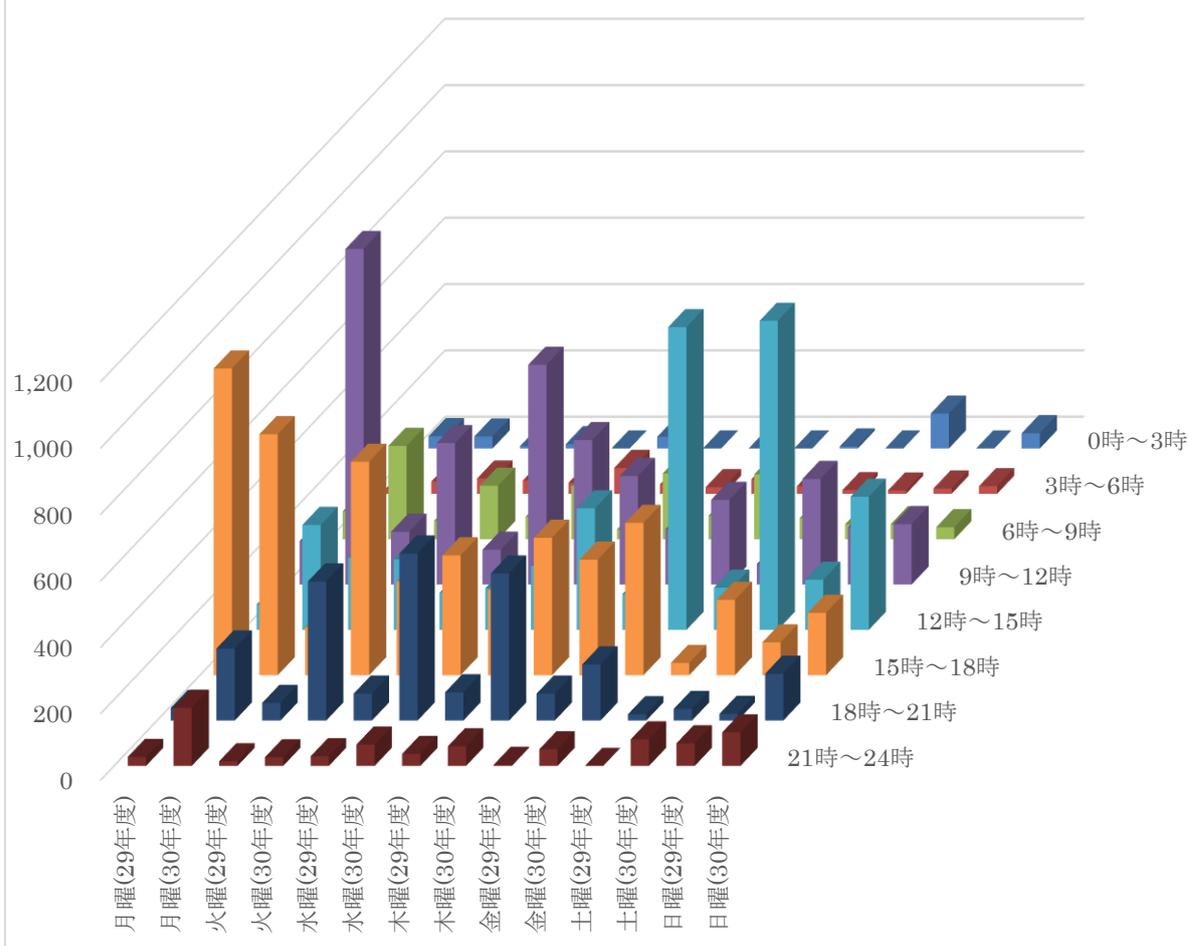


9時から18時の時間帯が比較的多い。特に15時～18時がアクセスしやすいことが分かる。

1.5 曜日別・時間帯別アクセス状況

	0時～ 3時	3時～ 6時	6時～ 9時	9時～ 12時	12時 ～15 時	15時 ～18 時	18時 ～21 時	21時 ～24 時
月曜(29年度)	37	15	84	131	77	924	38	27
月曜(30年度)	36	37	281	1,011	316	726	217	175
月曜計	73	52	365	1,142	393	1,650	255	202
火曜(29年度)	7	46	55	159	218	144	53	14
火曜(30年度)	13	40	161	426	212	643	419	26
火曜計	20	86	216	585	430	787	472	40
水曜(29年度)	0	33	67	105	112	283	81	29
水曜(30年度)	35	78	161	662	125	361	503	64
水曜計	35	111	228	767	237	644	584	93
木曜(29年度)	0	28	29	435	193	257	85	36
木曜(30年度)	0	20	198	327	366	414	443	59
木曜計	0	48	227	762	559	671	528	95
金曜(29年度)	0	44	70	167	108	348	81	3
金曜(30年度)	6	23	195	255	912	459	169	50
金曜計	6	67	265	422	1,020	807	250	53
土曜(29年度)	0	11	63	62	127	37	19	0
土曜(30年度)	105	10	45	318	931	227	35	80
土曜計	105	21	108	380	1,058	264	54	80
日曜(29年度)	0	16	45	172	151	99	20	68
日曜(30年度)	46	23	36	182	401	188	141	101
日曜計	46	39	81	354	552	287	161	169

曜日と時間帯別アクセス数



平成 30 年度登録者は、月曜日の 9 時から 12 時や金曜日と土曜日の 12 時から 15 時のアクセス数が多い。平成 29 年度登録者は月曜日の 15 時から 18 時が多い。

1.6 科目別アクセス状況

区分ID	区分	科目ID	科目	コマ	操作	アクセス数 29年度 登録者	アクセス数 30年度 登録者	アクセス数 合計				
A	学校理念	A1	プロフェッショナル ディベロップメント	シラバスダウンロード		40	99	139				
				第1回 専門職 (者)professionalとは	教材ダウンロード	39	103	142				
					講義映像	45	87	132				
					演習問題	48	86	134				
				第2回 専門学校教 員のプロフェッショナルデ ィベロップメント	教材ダウンロード	37	86	123				
					講義映像	39	68	107				
					演習問題	36	59	95				
				科目アンケート		37	59	96				
				B	学校・学級運営	B1	カリキュラムデザイン	シラバスダウンロード		43	145	188
								第1回 カリキュラムデザインに関わる理論的背景	コマシラバスダウンロード	50	156	206
教材ダウンロード	47	148	195									
講義映像	48	122	170									
演習問題	46	99	145									
第2回 学びの理論と事例	コマシラバスダウンロード	35	98					133				
	教材ダウンロード	39	109					148				
	講義映像	33	74					107				
	演習問題	36	56					92				
第3回 学びの評価と今後の展望	コマシラバスダウンロード	30	100					130				
	教材ダウンロード	33	100			133						
	講義映像	34	66			100						
	演習問題	36	51			87						
科目アンケート		42	52			94						
B2	カウンセリング能力	シラバスダウンロード				28	93	121				
		第1回 カウンセリングの基礎①きく(聞く・聴く・訊く・効く)ことについて	教材ダウンロード			43	116	159				
			講義映像			38	104	142				
			演習問題			35	87	122				

て				
第 2 回 カウンセリング の基礎②こたえる(答 える answer・応える response)ことについて	教材ダウンロード	36	96	132
	講義映像	34	86	120
	演習問題	26	60	86
第 3 回 カウンセリング の基礎③わかる(分か る・理解する・把握す る)ことについて	教材ダウンロード	35	81	116
	講義映像	38	62	100
	演習問題	27	54	81
第 4 回 カウンセリング の展開①きく(聞く・聴 く・訊く・効く)ことにつ いて(その 1)	教材ダウンロード	29	78	107
	講義映像	29	71	100
	演習問題	27	49	76
第 5 回 カウンセリング の展開②きく(聞く・聴 く・訊く・効く)ことにつ いて(その 2)	教材ダウンロード	32	72	104
	講義映像	19	55	74
	演習問題	20	49	69
第 6 回 カウンセリング の展開③こたえる(答え る answer・応える response)ことについて (その 1)	教材ダウンロード	22	70	92
	講義映像	17	53	70
	演習問題	16	49	65
第 7 回 カウンセリング の展開④こたえる(答え る answer・応える response)ことについて (その 2)	教材ダウンロード	21	70	91
	講義映像	17	49	66
	演習問題	17	44	61
第 8 回 カウンセリング の展開⑤わかる(分か る・理解する・把握す る)ことについて(その 1)	教材ダウンロード	26	57	83
	講義映像	16	51	67
	演習問題	16	44	60
第 9 回 カウンセリング の展開⑥わかる(分か る・理解する・把握す る)ことについて(その 2)	教材ダウンロード	26	55	81
	講義映像	19	53	72
	演習問題	16	42	58
第 10 回 カウンセリング	教材ダウンロード	19	55	74

B3	ファシリテーション	の展開⑦まとめ	講義映像	16	51	67	
			演習問題	19	39	58	
		科目アンケート			17	36	53
		シラバスダウンロード			24	48	72
		第1回 ファシリテーションとは	コマシラバスダウンロード	22	67	89	
			教材ダウンロード	24	55	79	
			講義映像	25	47	72	
			演習問題	28	38	66	
		第2回 会議を活性化するためのファシリテーション	コマシラバスダウンロード	21	56	77	
			教材ダウンロード	24	53	77	
			講義映像	18	39	57	
			演習問題	21	37	58	
		第3回 アクティブ・ラーニング型授業を企画・実施するためのファシリテーション	コマシラバスダウンロード	21	53	74	
			教材ダウンロード	24	52	76	
			講義映像	15	41	56	
演習問題	19		39	58			
科目アンケート			16	32	48		
B4	発達障害	シラバスダウンロード			40	78	118
		第1回 発達障害とは	コマシラバスダウンロード	30	88	118	
			教材ダウンロード	36	92	128	
			講義映像	33	82	115	
			演習問題	26	64	90	
		第2回 発達障害から起こる二次的問題	コマシラバスダウンロード	24	75	99	
			教材ダウンロード	27	79	106	
			講義映像	22	56	78	
			演習問題	24	54	78	
		第3回 合理的配慮について	コマシラバスダウンロード	25	68	93	
			教材ダウンロード	32	78	110	
			講義映像	18	46	64	

			演習問題	25	47	72	
			科目アンケート	25	45	70	
			シラバスダウンロード	24	65	89	
		B5	第1回 授業の概要、 専門学校教員をめぐる 状況	コマシラバスダウ ンロード	28	74	102
	教材ダウンロード			27	82	109	
	講義映像			19	56	75	
	演習問題			17	34	51	
			第2回 資質・能力と 学習指導能力	コマシラバスダウ ンロード	18	64	82
	教材ダウンロード			18	69	87	
	講義映像			13	44	57	
	演習問題			16	33	49	
			第3回 現職教育の 現状とあり方	コマシラバスダウ ンロード	12	55	67
	教材ダウンロード			19	59	78	
	講義映像			20	39	59	
	演習問題			16	32	48	
			第4回 教職の省察1 —問題の設定	コマシラバスダウ ンロード	18	55	73
	教材ダウンロード			26	59	85	
	講義映像			15	43	58	
	演習問題			18	30	48	
			第5回 教職の省察2 —行為の中の省察・ 行為についての省察	コマシラバスダウ ンロード	15	52	67
	教材ダウンロード			19	57	76	
	講義映像			15	36	51	
	演習問題			16	29	45	
			第6回 教育実践研 究とは 1	コマシラバスダウ ンロード	12	60	72
	教材ダウンロード	15		58	73		
	講義映像	13		37	50		
	演習問題	16		30	46		
		第7回 教育実践研 究とは2	コマシラバスダウ ンロード	12	52	64	

			教材ダウンロード	14	58	72
			講義映像	12	39	51
			演習問題	16	31	47
		第 8 回 職場を研修の場に一同僚性と授業研究	コマシラバスダウンロード	15	53	68
			教材ダウンロード	13	59	72
			講義映像	12	36	48
			演習問題	16	29	45
		第 9 回 外部研修の改善—ラウンドテーブル(2)	コマシラバスダウンロード	12	55	67
			教材ダウンロード	15	54	69
			講義映像	12	40	52
			演習問題	16	30	46
		第 10 回 学習指導能力のまとめ	コマシラバスダウンロード	13	53	66
			教材ダウンロード	16	61	77
			講義映像	12	33	45
			演習問題	16	32	48
		科目アンケート		19	28	47
		シラバスダウンロード		18	59	77
B6	学級運営	第 1 回 学びの土壌を耕す	コマシラバスダウンロード	12	68	80
			教材ダウンロード	21	70	91
			講義映像	16	53	69
			演習問題	16	40	56
		第 2 回 学びの場としての「学級」	コマシラバスダウンロード	12	58	70
			教材ダウンロード	16	68	84
			講義映像	15	41	56
			演習問題	17	32	49
		第 3 回 学びに向かう集団の形成	コマシラバスダウンロード	12	52	64
			教材ダウンロード	12	59	71
			講義映像	12	46	58
			演習問題	16	32	48

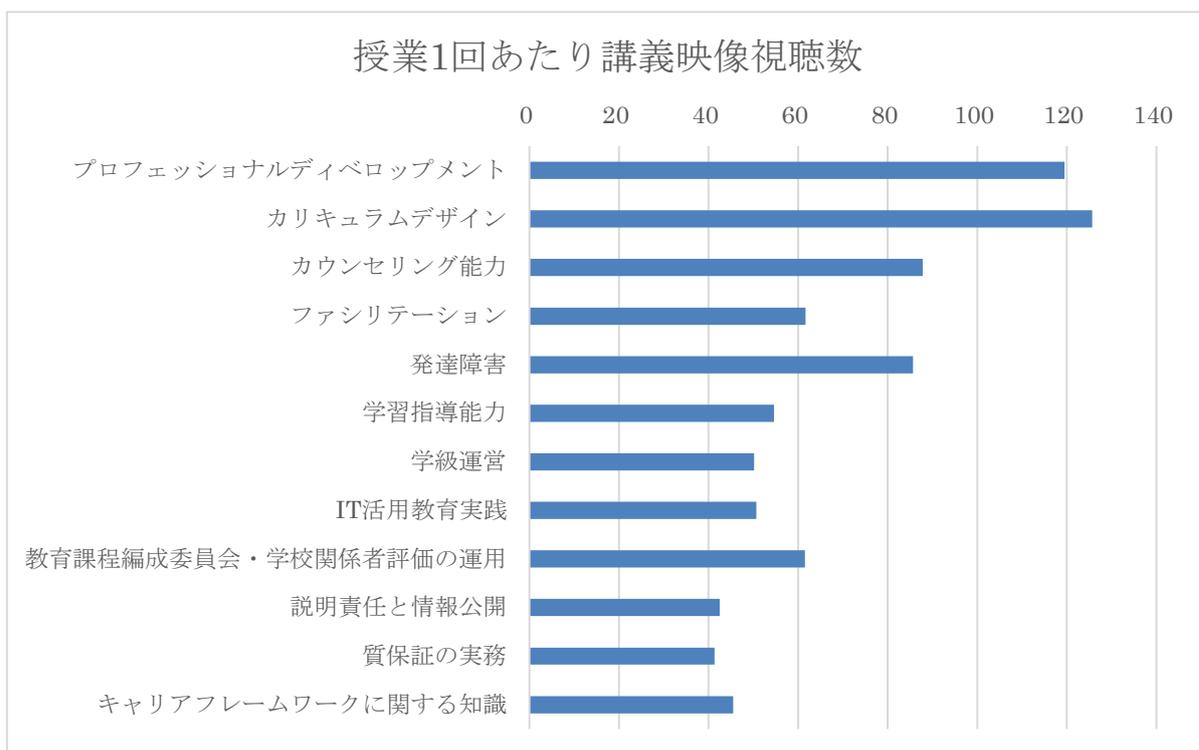
第4回 子どもたちの相互関係・現状と課題	コマシラバスダウンロード	18	51	69
	教材ダウンロード	12	59	71
	講義映像	12	38	50
	演習問題	16	27	43
第5回 相互関係形成の「場」と「機会」	コマシラバスダウンロード	12	50	62
	教材ダウンロード	13	57	70
	講義映像	13	39	52
	演習問題	16	26	42
第6回 「与えられた集団」から「自分たちの集団」へ	コマシラバスダウンロード	12	51	63
	教材ダウンロード	15	57	72
	講義映像	13	42	55
	演習問題	16	26	42
第7回 「規範意識」と「実践力」	コマシラバスダウンロード	12	43	55
	教材ダウンロード	16	50	66
	講義映像	14	33	47
	演習問題	17	25	42
第8回 「学び」を支える組織的な取組	コマシラバスダウンロード	12	42	54
	教材ダウンロード	14	49	63
	講義映像	16	31	47
	演習問題	17	24	41
第9回 「個業」から「協働」へ	コマシラバスダウンロード	12	42	54
	教材ダウンロード	12	48	60
	講義映像	12	25	37
	演習問題	16	16	32
第10回 自己実現と学びの土壌	コマシラバスダウンロード	12	39	51
	教材ダウンロード	12	48	60
	講義映像	12	19	31
	演習問題	16	16	32

			科目アンケート	18	17	35	
			シラバスダウンロード	19	57	76	
		B7 IT活用 教育実 践	第1回 学校教育にお けるIT活用の意義	コマシラバスダ ウンロード	15	64	79
				教材ダウンロード	16	69	85
				講義映像	15	41	56
				演習問題	18	24	42
			第2回 IT活用教育 の実際	コマシラバスダ ウンロード	15	52	67
				教材ダウンロード	12	56	68
				講義映像	13	35	48
				演習問題	23	23	46
			第3回 IT活用を進め る上で教育現場に望 まれる準備	コマシラバスダ ウンロード	12	48	60
				教材ダウンロード	13	52	65
				講義映像	14	34	48
				演習問題	17	23	40
			科目アンケート	18	27	45	
			シラバスダウンロード	28	49	77	
		C1 教育課 程編成 委員会・ 学校関 係者評 価の運 用	第1回 教育課程編 成委員会の運用	コマシラバスダ ウンロード	34	55	89
				教材ダウンロード	32	60	92
				講義映像	27	37	64
				演習問題	59	129	188
			第2回 学校関係者 評価の運用	コマシラバスダ ウンロード	24	57	81
				教材ダウンロード	25	57	82
				講義映像	24	35	59
				演習問題	64	112	176
			科目アンケート	20	29	49	
			シラバスダウンロード	21	40	61	
		C2 説明責 任と情 報公開	第1回 説明責任の 意味	コマシラバスダ ウンロード	18	40	58
				教材ダウンロード	20	43	63
				講義映像	17	28	45
C	職業 実践 専門 課程						

				演習問題	18	26	44	
			第2回 情報公開	コマシラバスダウンロード	15	39	54	
				教材ダウンロード	17	42	59	
				講義映像	12	28	40	
				演習問題	17	26	43	
				科目アンケート	19	24	43	
			シラバスダウンロード		18	47	65	
D	内部 質 保 証	D2	質保証 の実務	第1回 専門学校に 対する期待と質保証・ 向上	コマシラバスダウンロード	23	58	81
					教材ダウンロード	22	66	88
					講義映像	23	40	63
					演習問題	132	190	322
				第2回 高等教育・職 業教育に関する質保 証・向上動向	コマシラバスダウンロード	13	45	58
					教材ダウンロード	12	49	61
					講義映像	15	33	48
					演習問題	133	207	340
				第3回 第三者評価 プロセスの知識	コマシラバスダウンロード	15	42	57
					教材ダウンロード	19	43	62
					講義映像	13	31	44
					演習問題	76	206	282
				第4回 自己評価と 説明責任	コマシラバスダウンロード	16	42	58
					教材ダウンロード	15	48	63
					講義映像	13	23	36
					演習問題	68	192	260
				第5回 評価の基準に 対する考え方	コマシラバスダウンロード	15	43	58
					教材ダウンロード	15	46	61
					講義映像	14	23	37
					演習問題	15	22	37
				第6回 専門学校第 三者評価「基準1	コマシラバスダウンロード	12	41	53

				目的・目標の設定および入学者選抜」の自己評価	教材ダウンロード	13	45	58			
					講義映像	14	22	36			
					演習問題	14	22	36			
					第7回 専門学校第三者評価「基準2 専修学校設置基準および関係法令等の適合性」の自己評価	コマシラバスダウンロード	12	40	52		
						教材ダウンロード	12	45	57		
						講義映像	12	24	36		
						演習問題	14	23	37		
					「第8回 専門学校第三者評価「基準3 職業実践専門課程の認定要件の適合性」の自己評価」コマシラバスダウンロードファイル	コマシラバスダウンロード	12	39	51		
						教材ダウンロード	13	48	61		
						講義映像	15	25	40		
						演習問題	16	20	36		
					第9回 専門学校第三者評価「基準4 内部質保証」の自己評価	コマシラバスダウンロード	12	39	51		
						教材ダウンロード	12	45	57		
						講義映像	13	22	35		
						演習問題	13	24	37		
					第10回 専門学校第三者評価「基準5 学修成果」の自己評価	コマシラバスダウンロード	13	44	57		
						教材ダウンロード	13	51	64		
						講義映像	15	23	38		
						演習問題	14	23	37		
					科目アンケート					14	21
E	学修成果	E2	キャリアフレームワークに関する知識	シラバスダウンロード					21	31	52
				第1回 キャリアフレームワークと学修成果	コマシラバスダウンロード	15	36	51			
					教材ダウンロード	15	43	58			
					講義映像	21	31	52			
					演習問題	17	30	47			
				第2回 学修成果指標	コマシラバスダウンロード	15	37	52			
					教材ダウンロード	15	42	57			
					講義映像	16	23	39			

				演習問題	17	25	42
				科目アンケート	16	21	37
			全体アンケート		4	5	9

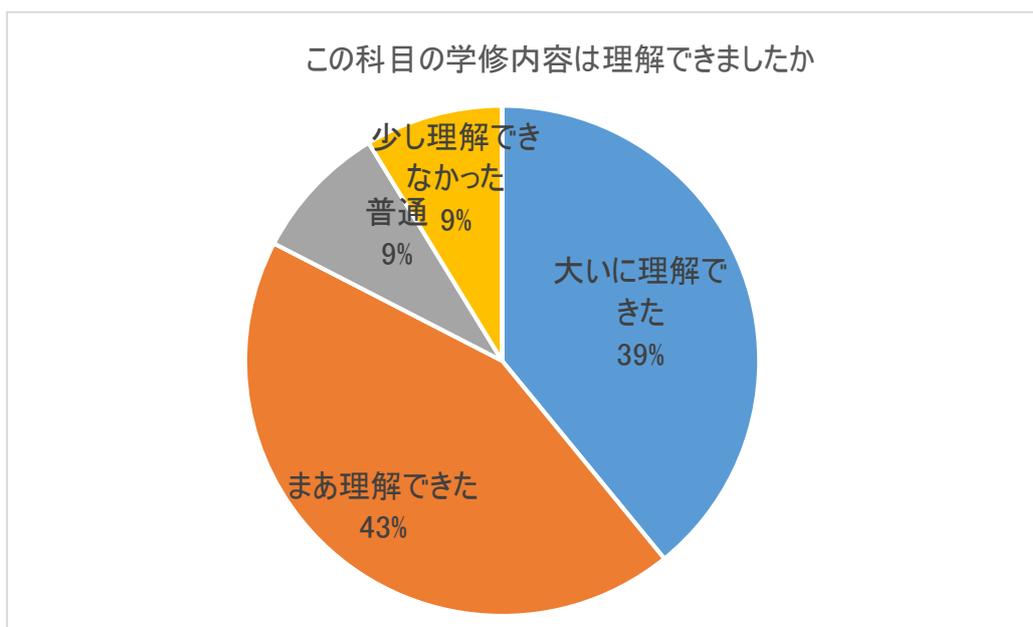


カリキュラムデザイン、プロフェッショナルディベロップメントの講義のアクセス数が多く、関心が高いことがわかる。次にカウンセリングに関する講義が多い。

2 アンケート結果集計・分析

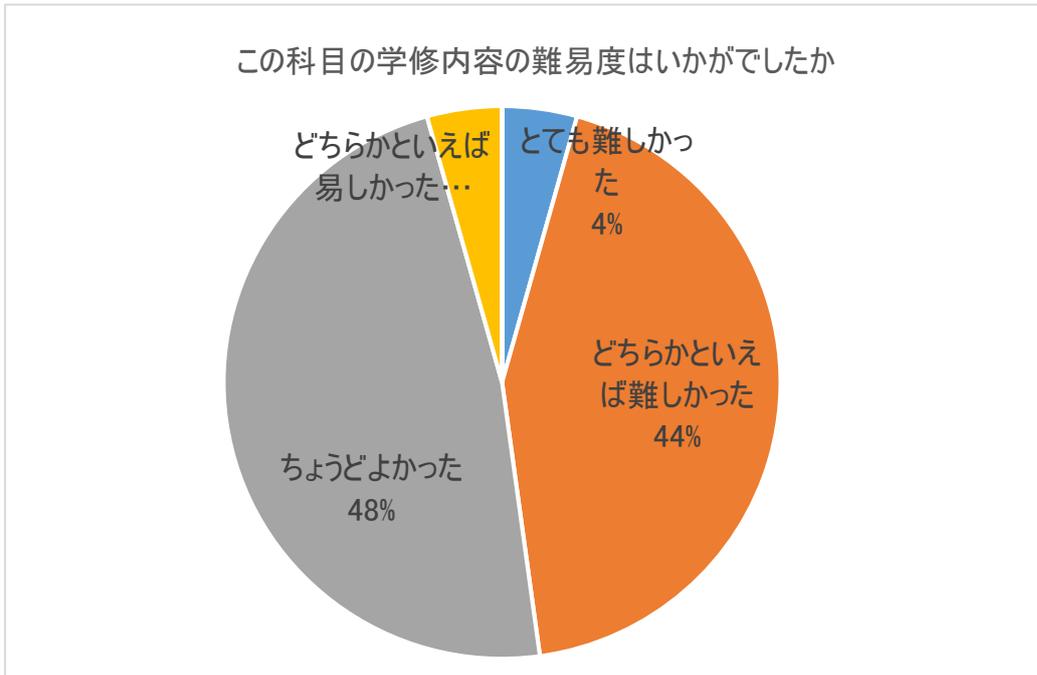
2.1 プロフェッショナルディベロップメント (A1)

この科目の学修内容は理解できましたか。	
大いに理解できた	9
まあ理解できた	10
普通	2
少し理解できなかった	2
まったく理解できなかった	0
わからない	0



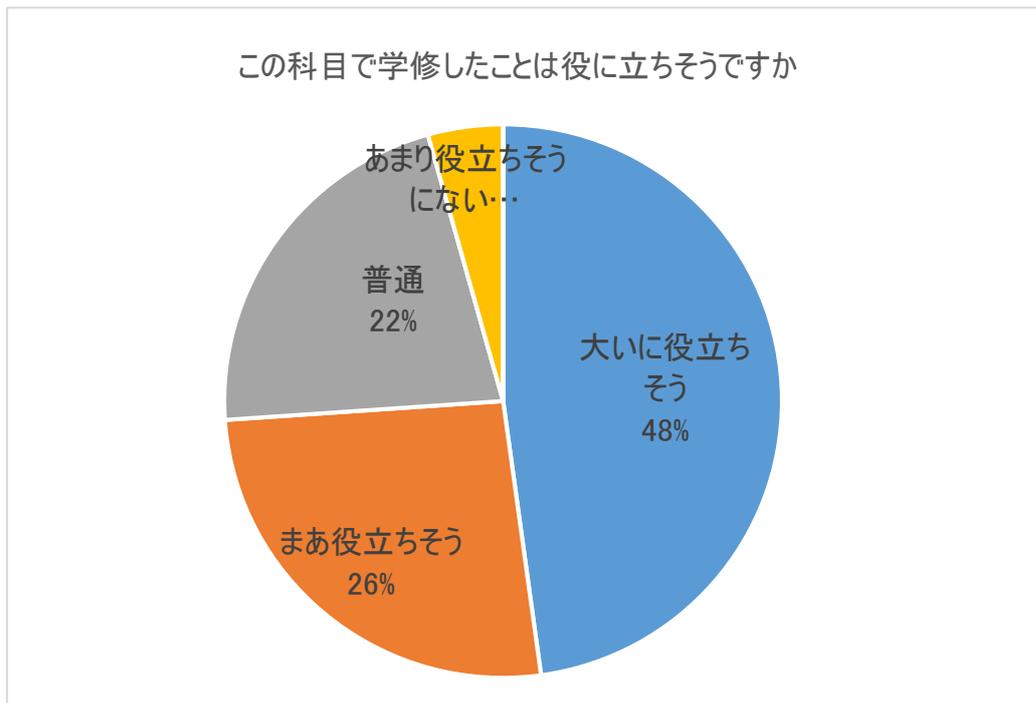
「大いに理解できた」、「まあ理解できた」という回答者が 80 パーセントを超え多かった。

この科目の学修内容の難易度はいかがでしたか？	
とても難しかった	1
どちらかといえば難しかった	10
ちょうどよかった	11
どちらかといえば易しかった	1
とても易しかった	0
わからない	0



「とても難しかった」と「どちらかといえば難しかった」とを合わせた回答者数と「ちょうどよかった」の回答者数がどちらも 48 パーセントとなっている。

この科目で学修したことは役に立ちそうですか。	
大いに役立ちそう	11
まあ役立ちそう	6
普通	5
あまり役立ちそうにない	1
まったく役立ちそうにない	0
わからない	0



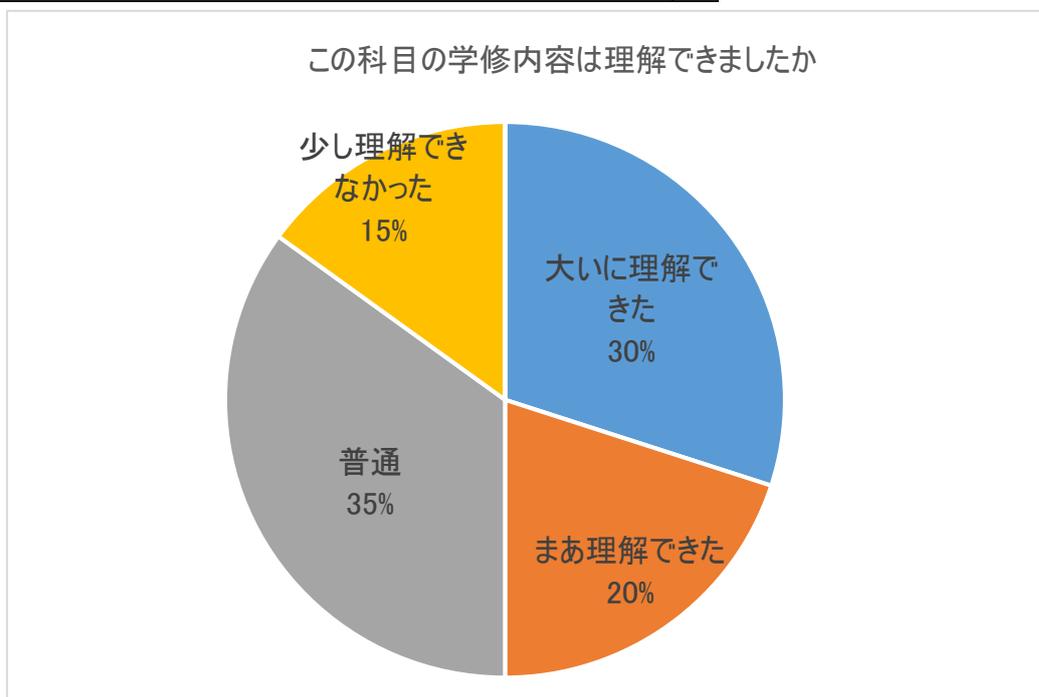
「大いに役立ちそう」「まあ役立ちそう」を合わせた回答者が 74 パーセントと多い。

- 意見
- 有意義な講義だった
 - この内容が中学や高校の先生方にもきちんと伝わるといいなと思いました。教育に携わるすべての先生がプロフェッショナルになれるように願います。
 - チャンスがあれば、大学院等で直接、先生方からの講義を受講したい。
 - どのような学生を育てたいと考えているのか……いつも意識していそうで、意見を問われると明確に答えられない課題であったと思います。自分への省察、これを常に胸に置き、仕事に反映させていきたいと思います。
 - プロフェッショナルディベロップメントについて、改めて認識することができました。さらに、これまでの教育観についても整理することができ大変感謝申し上げます。
 - 学校全体の教育課程のディベロップメントと同様に、教職員の自己開発が、教育の質向上ひいては学生の質向上に結び付いて行くということが分かりました。
 - 教員としての根幹となる部分を、軸をしっかりと置き枝葉をつけていかないとプロフェッショナルとは言えないのではないかと感じました。
 - 今後の職員研修のあり方を考える契機となった。
 - 専門職員としての立ち位置やあり方、教育の考え方を改めて学ぶ機会となりました。
 - 非常に説明しにくい分野と思われたが、丁寧な説明であったので、理解することができた。
- その他
 - まあ役立ちそうである、その一の方では内容がつかみにくかったように感じた。

- ・ 私は教員資格を持つ専門学校教員です。今後、難しい学生がますます増加すると予想できますが、指導力のある教員の少ないことは問題だと感じています。今後は専門学校教員も、教職を採用の条件にすべきだと考えていましたが、この科目を受け、さらにその思いが強くなりました。"
- ・ 内容が抽象的なため、具体的な動作に結びつけることが難しいと感じた。
- ・ 内容に関しては、丁寧に解りやすく講義して頂いて、満足させて頂いています。先にも書きましたが、音質をもう少し良くしていただけると、通勤途中で聴きながら学美やすくなると思います。よろしくお願い致します。"

2.2 カリキュラムデザイン (B1)

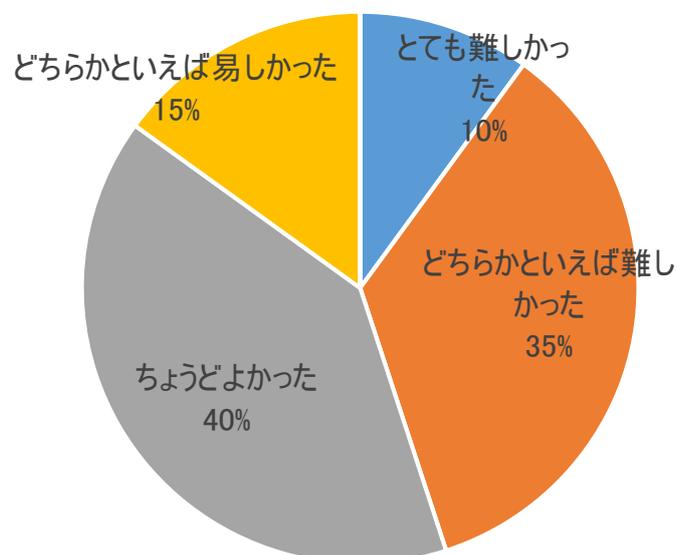
この科目の学修内容は理解できましたか。	
大いに理解できた	6
まあ理解できた	4
普通	7
少し理解できなかった	3
まったく理解できなかった	0
わからない	0



「大いに理解できた」「まあ理解できた」の回答者が合わせて 50 パーセントいるが、「少し理解できなかった」という回答者も 15 パーセントいる。

この科目の学修内容の難易度はいかがでしたか？	
とても難しかった	2
どちらかといえば難しかった	7
ちょうどよかった	8
どちらかといえば易しかった	3
とても易しかった	0
わからない	0

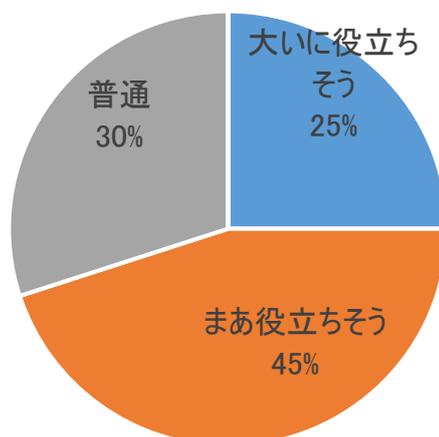
この科目の学修内容の難易度はいかがでしたか



「ちょうどよかった」と「どちらかといえば易しかった」を合わせると 55 パーセントと過半数だが、「とても難しかった」「どちらかというとな難しかった」という回答者もいる。

この科目で学修したことは役に立ちそうですか。	
大いに役立ちそう	5
まあ役立ちそう	9
普通	6
あまり役立ちそうにない	0
まったく役立ちそうにない	0
わからない	0

この科目で学修したことは役に立ちそうですか



「大いに役立ちそう」と「まあ役立ちそう」を合わせて 70 パーセントを占める。

- 意見
- 良い講義だった
- 『21 世紀型能力』で求められる資質能力は、私自身ずっと望んできたものです。今までは暗記力がある人が能力があると誤解されていることに違和感を感じてきました。これからは、本来の総合力・思考力・実践力が評価されることは、実に好ましいことです。そのために、今までのカリキュラムの変更を要求されること・評価方法の煩雑化は苦に思いません。本当に能力のある人材を育てる教育に変わることを大いに期待しつつ、私自身も乗り遅れないように勉強していこうと思います。
- 大変参考になりましたが、自分がどれだけ理解できたか不安です。繰り返し学習し理解を深めたいと思います。
- 参考にしていきたい
- ジグソー法は実践したことがないので、例えば IT の発展に寄与したものとしてハードウェア、ソフトウェア、人の 3 グループに分けて対話させてみるような思索、探究など新学習指導要領の沿った試験的試みを導入して新しいカリキュラムデザインを模索していきたい。
- 教育について、指摘があったように「独りよがり」「経験則の押し売り」的な授業を行ったことに反省しています。「対話」「理解度」等をキーワードとして今後の授業に活かして生きたいと思います。
- シラバス作成を行う上で、改善すべき視点や授業展開のヒントをいただきました。ありがとうございました。
- 要望
- 映像での講義では、音質の向上をお願いします。この講座、今後も楽しみです。これからも、よろしくお願いします。
- リンクや参考文献が多過ぎて、どこを見たら良いのか分からないものが多かった。リンク先にこの様な記述があって、だからこうなんだという感じにして欲しかった。リンク先は数百ページにも及び、これを全部読むのは現実的ではない。予習・復習も大事かもしれないが、もっと映像のみで 8 割は理解・完結する様に、まさにカリキュラムデザインして欲しいと思う。映像も PDF を読んでいるだけのことも多く、「映像」が活かされていないと感じた。数が増えたとしても、各映像は 10 分前後が望ましい。音質も悪く、映像コンテンツの作成に関しては、素人が作成したという感じがした。
- 理論が多めであったため、理解はできたつもりではあるがうまく実践できるか少し不安がある。具体的な実践例などがあるとより理解を深めることができるのではないかと感じた。
- 授業の形態 (座学/多人数・クラス単位・ゼミ単位、演習/クラス単位・グループ単位))

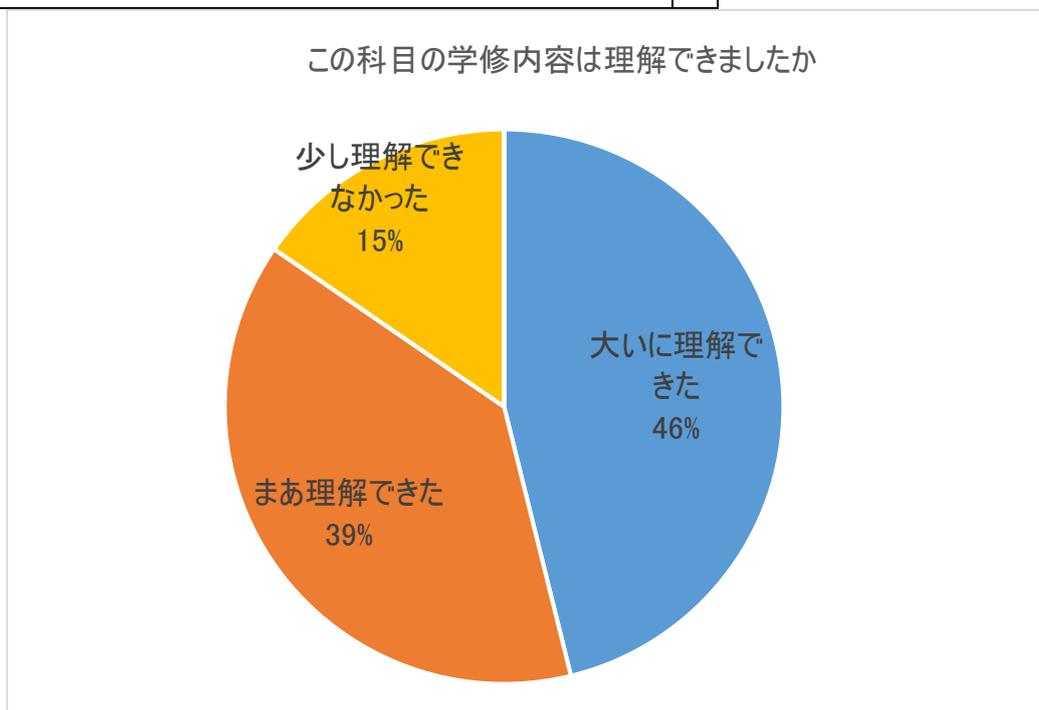
に応じて、それぞれのカリキュラムデザインについて論じて頂けると、より深く検討を進められるのではないかと思いました。貴重な講義をありがとうございました。

➤ その他

- ・ 先生の視線が、資料を見てばかりがとても気になってしまった。
- ・ 専門学校の場合は、社会的な認知度が低いいためか、その学習内容について、企業よりあまり関心を持たれていない気がする（何を学んだかあまり気にされない）。専門性においても前提になる知識も要求されていないことが多い。従って、ここまでというゴールがあるわけではないので、ある意味、自由に教育ができる。目指したい職業への関心を高め、一つのハードルを越えさせることで、自信を持たせる。これが可能なカリキュラムであれば、急いで成果を求める必要もないと思う。

2.3 カウンセリング能力（B2）

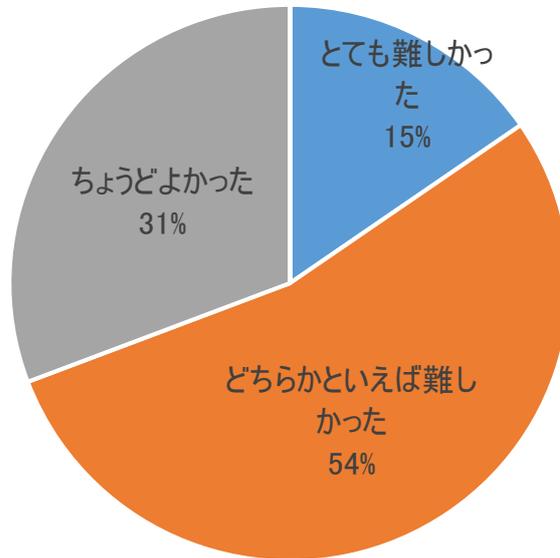
この科目の学修内容は理解できましたか。	
大いに理解できた	6
まあ理解できた	5
普通	0
少し理解できなかった	2
まったく理解できなかった	0
わからない	0



「大いに理解できた」「まあ理解できた」の回答者を合わせて 85 パーセントを占めた。

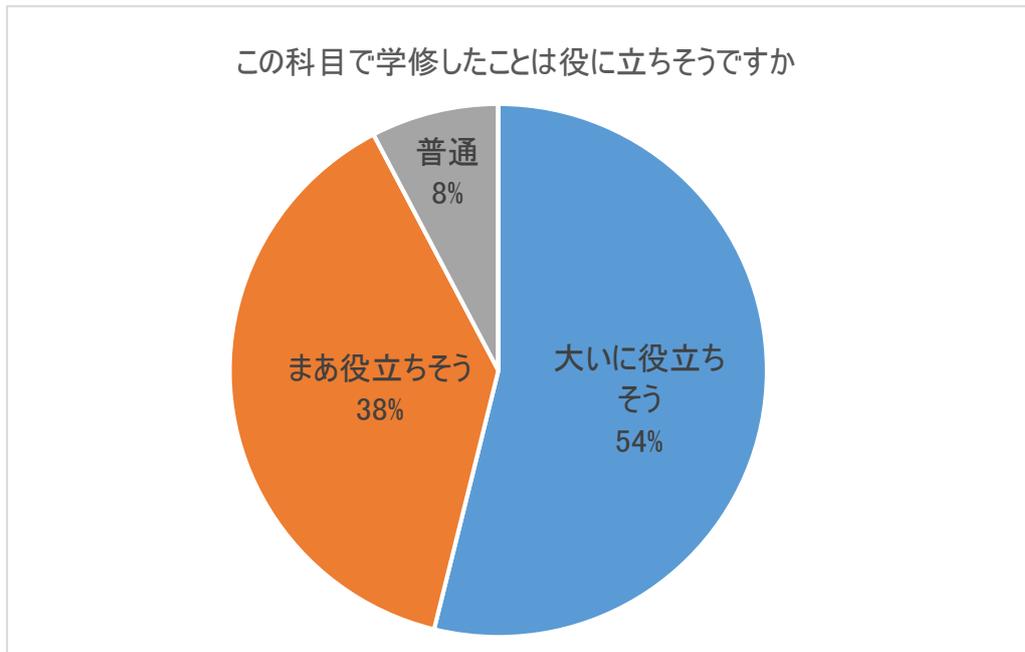
この科目の学修内容の難易度はいかがでしたか？	
とても難しかった	2
どちらかといえば難しかった	7
ちょうどよかった	4
どちらかといえば易しかった	0
とても易しかった	0
わからない	0

この科目の学修内容の難易度はいかがでしたか



「どちらかといえば難しかった」という回答が 54 パーセントと一番多い。

この科目で学修したことは役に立ちそうですか。	
大いに役立ちそう	7
まあ役立ちそう	5
普通	1
あまり役立ちそうにない	0
まったく役立ちそうにない	0
わからない	0



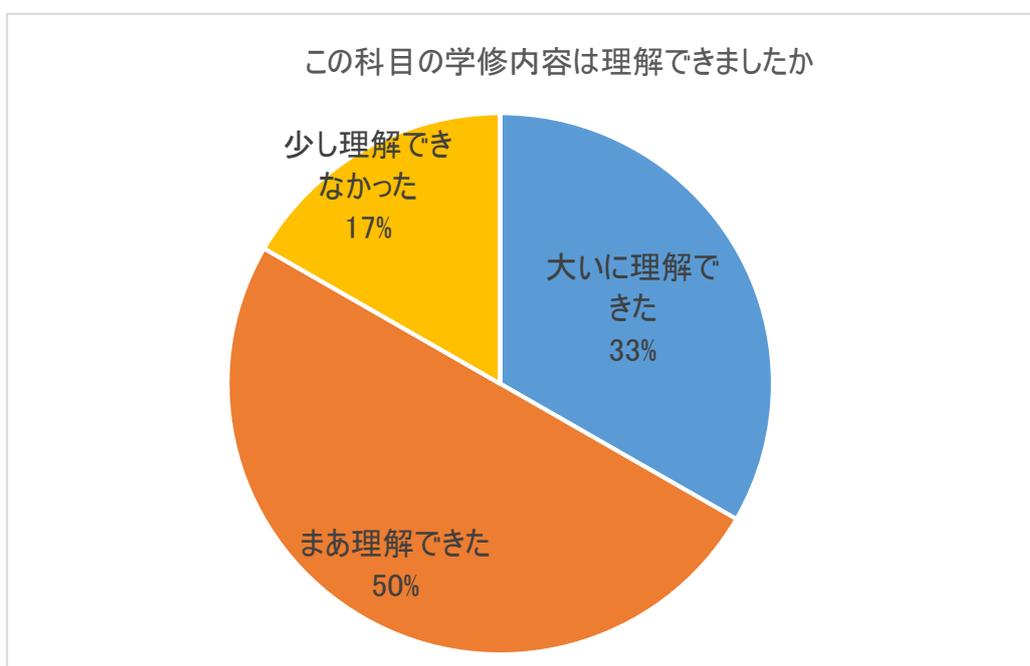
「大いに役立ちそう」と「まあ役立ちそう」の回答者を合わせて 92 パーセントと大半を占めている。

- 意見
- 継続して学びたい
 - ・ カウンセリングにおける、聴く立場の姿勢・視点がしっかり整理できました。ありがとうございました。
 - ・ まさに現場で起こりえることが、理解しやすく講義され大変為になりました。ただやはり常に思っていかなければならないことなので、トレーニングの重要性を感じました。
- 参考になった
 - ・ 特に問題はありません。積極的に今後も学び続けたい。
 - ・ カウンセリングや面談に関して、何気なくおこないがちだったが、この科目を学んだ事で、もっと考えながら工夫して対応していこうと、深く思いました。最初から完璧に出来るはずは無いですが、何度も繰り返し見直して、スキルアップに努めていきます。ありがとうございました。
 - ・ 内容は理解できたが、万遍なく注意を向けて聞く、否定しない、共感など、頭ではわかっているでも実践するのは難しいと思われる項目が多かったと感じた。今回の内容を忘れずに今後の面談などに活かしながら経験を積んでいきたいと思う。
 - ・ 学生や保護者との面談の中で活かせる多くの情報を学ぶことができました。
- 要望・その他
 - ・ もう少し具体例があると、理解の助けになったかもしれない。
 - ・ 内容的に伝えるには思いますが、話をしている内容を理解するのに時間がかかり

ました。

2.4 ファシリテーション (B3)

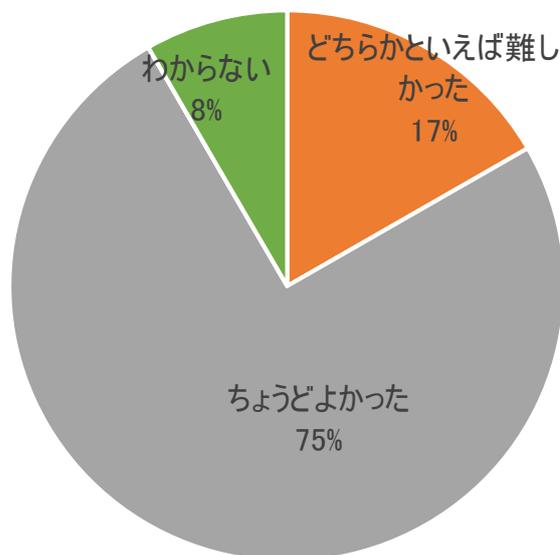
この科目の学修内容は理解できましたか。	
大いに理解できた	4
まあ理解できた	6
普通	0
少し理解できなかった	2
まったく理解できなかった	0
わからない	0



「大いに理解できた」と「まあ理解できた」の回答者を合わせると 83 パーセントをしめる。

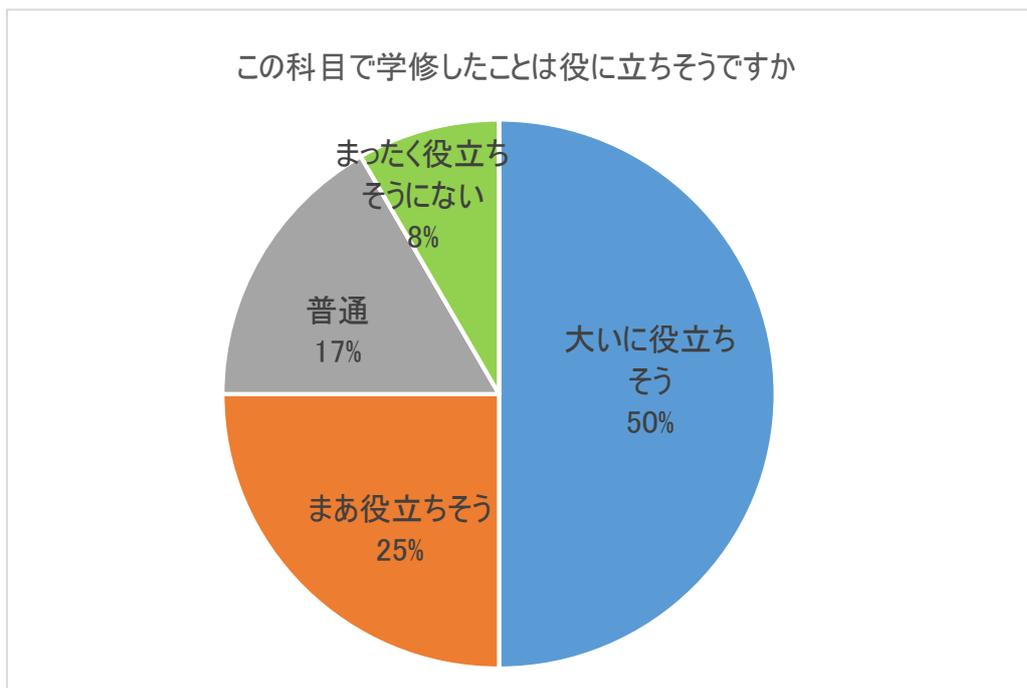
この科目の学修内容の難易度はいかがでしたか？	
とても難しかった	0
どちらかといえば難しかった	2
ちょうどよかった	9
どちらかといえば易しかった	0
とても易しかった	0
わからない	1

この科目の学修内容の難易度はいかがでしたか



「ちょうどよかった」という回答者が 75 パーセントと一番多い。

この科目で学修したことは役に立ちそうですか。	
大いに役立ちそう	6
まあ役立ちそう	3
普通	2
あまり役立ちそうにない	0
まったく役立ちそうにない	1
わからない	0



「大いに役立つ」という回答が 50 パーセントで、「まあ役立つ」という回答者を合わせると、75 パーセントになる。

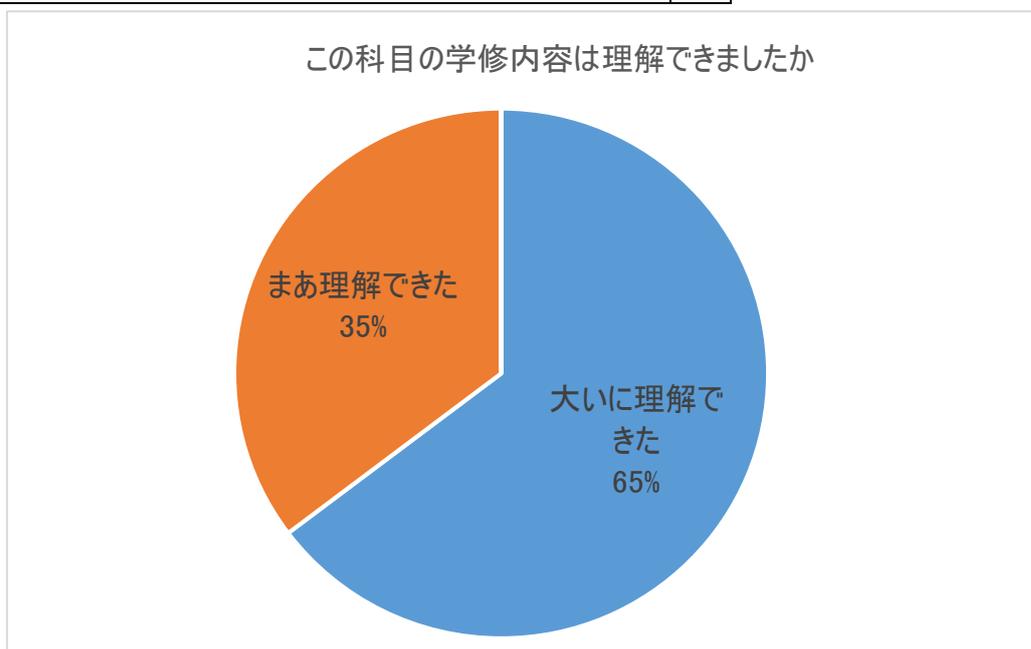
- 意見
- 参考になった
- 自己の能力の無さを実感した。積極的に自己改革をし、子ども達に能動的に授業に取り組めるように変容したい。
- 科目で話された内容と、アンケートの記述内容に整合性を感じないため、かなり戸惑った。ファシリテーターとしての視点や教員として考えるべきことは大変良くまとめていただいていたので、何度も繰り返し確認させていただきます。ありがとうございました。
- 会議や授業（グループワーク）においてのコツを分かり易く教えていただきました。実践して行くには練習も必要なので実践し再度受講していきたいです。
- 具体的な事例を交えて頂いた内容でした。更に実際の授業の様子を観察する機会を作って、授業向上していきたいです。ありがとうございました。
- 会議や授業の進め方によって結果が大きく変わることがわかりました。意識して身に着けたく思います。
- 要望
- コマ数をあと 2 回増やし、具体的な成功事例と失敗事例を提示していただくと良い
- 演習課題の質問の仕方をもう少し考えて欲しい
- 例にたいする動画があり掴みやすかった。ただアクティブラーニングに関する例の動画もあると分かりやすいと感じました。

➤ その他

- ・ 第3回の資料の21ページが正しくPDF化されていない。大切なことは理解できるが、肝心なところで後は自分に置き換えて頑張ってください、という感じで放り出された認識でした。抽象論に終始してしまった感じがします。具体的にどういう準備をして、どういう問いかけをして、といった、もっと具体的な内容を望みます。演習問題も正直何を答えて良いか分からない。

2.5 発達障害（B4）

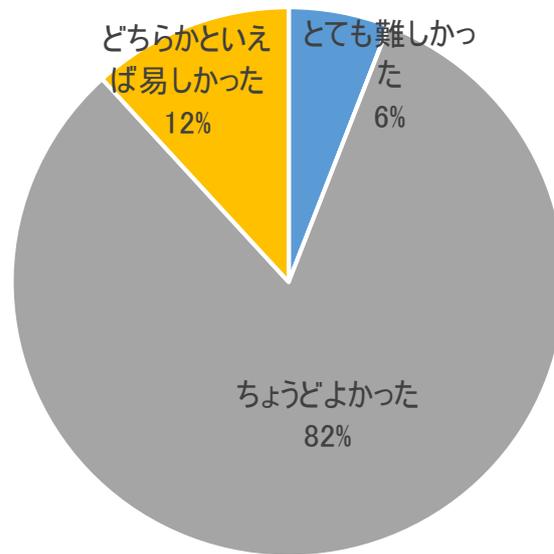
この科目の学修内容は理解できましたか。	
大いに理解できた	11
まあ理解できた	6
普通	0
少し理解できなかった	0
まったく理解できなかった	0
わからない	0



「大いに理解できた」「まあ理解できた」を合わせると 100 パーセントとなる

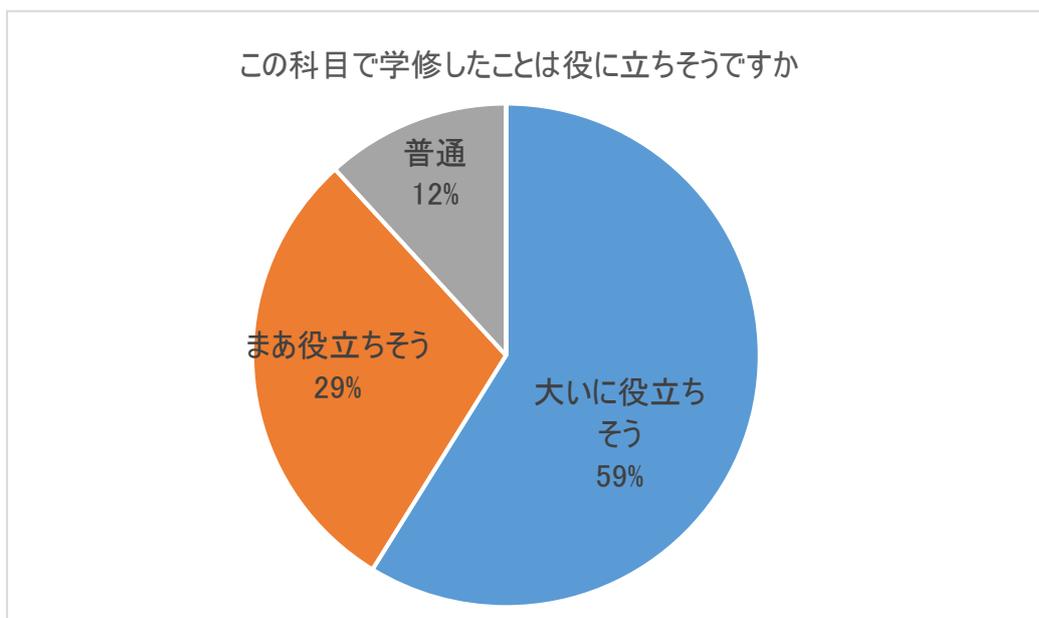
この科目の学修内容の難易度はいかがでしたか？	
とても難しかった	1
どちらかといえば難しかった	0
ちょうどよかった	14
どちらかといえば易しかった	2
とても易しかった	0
わからない	0

この科目の学修内容の難易度はいかがでしたか



「ちょうどよかった」という回答者が 82 パーセントと多く、理解しやすい内容であったと推測できる。

この科目で学修したことは役に立ちそうですか。	
大いに役立ちそう	10
まあ役立ちそう	5
普通	2
あまり役立ちそうにない	0
まったく役立ちそうにない	0
わからない	0



「大いに役立ちそう」と「まあ役立ちそう」の回答者を合わせると 88 パーセントとなり、役立つと考えていることがわかる。

- 意見
- 参考になった
- 昨今の学校運営では、発達障害の学生の在籍という点は、大きな課題となっています。しかしながら、学びたいからこそ進学してくる学生たちに、質の高い教育を実践していくためには、今回学んだことは常に考えておかなければならないことです。再度、考え方を整理する貴重な機会となりました。ありがとうございました。"
- 実際に発達障害の学生を対応する機会も増えている中、非常にわかりやすい内容で為になりました。
- サポートが必要な学生に対し、特別支援クラスにまとめて教育をすることが普通だと思っていましたが、インクルーシブ教育という考え方が理解出来ました。その点だけでも理解できたことは、今後に生かせるという意味では満足できた講義内容でした。ありがとうございました。
- 発達障害について知識を整理することができました。内容もわかりやすく、該当する学生を対応する場合に役に立ちそうな、有意義なものだと思います。
- 現任校にも発達障害の生徒がいて、今後も増加すると思われます。どのように理解するかを苦慮していますが、その参考になりました。
- 継続して学びたい
- 答えがあるわけではなく、それぞれ個別の例があり、知識を持ち、理解をした上でいかに向き合っていくか、引き続き学びたいと思います。
- 具体例が大変理解しやすく良かった。ただ、人の出入りの音や、チャイムの音は残念

でありました。今後もまたチャンスがあれば、大学院等で指導を頂きたいと思います。

➤ 要望

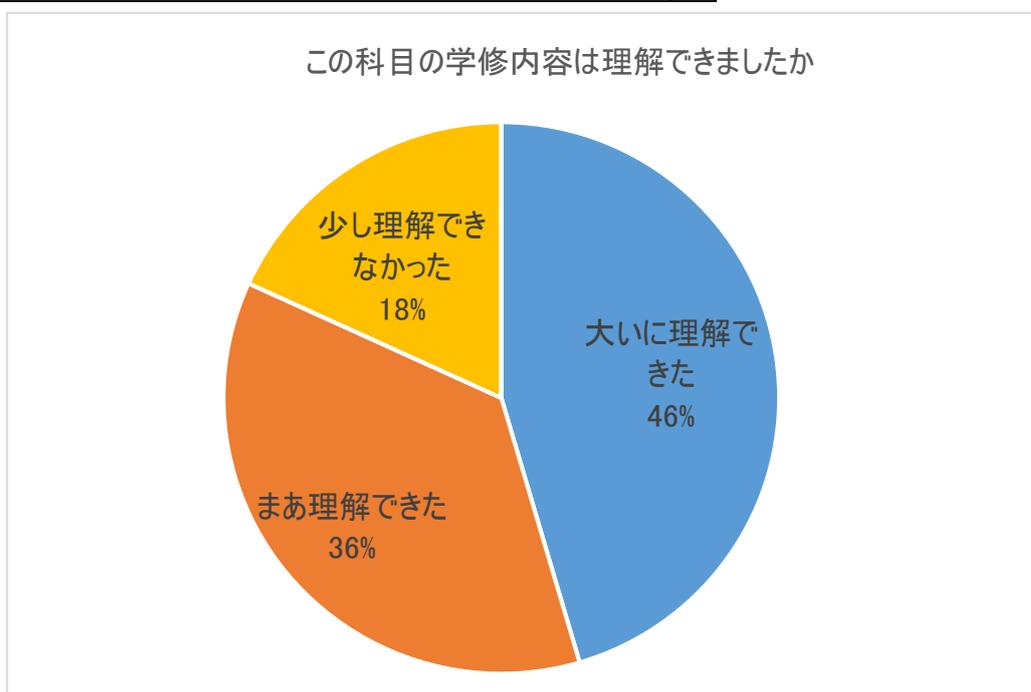
- ・ 発達障害の学生に対しての、「合理的な配慮」の具体例、対応例をもっと紹介してもらいたい。

➤ その他

- ・ 発達障害がテーマでなので第3回の演習問題は、発達障害の車椅子の学生に対する支援を問うものであったのでしょうか？単に車椅子の学生の支援方法と思い回答してしまいました。
- ・ 操作ミスで、最後の演習課題を途中でクリックしてしまいました。課題は学校をバリアフリーにするでした。ちなみに、このシステムはスマホで解答し誤信した場合、訂正出来ない事が不具合と感じました。"
- ・ この科目を学習することで、日々直面している発達障害の学生に対する対応に展望が開ける様なものであって欲しいが、残念ながら、様々な障害に対する理解は深まるものの、じゃあ、具体的にどうすれば良いのかは自分で考えろと突き放すだけでは不親切で、このことだけに関わってはいられない日々多忙な教師に負担を強いるだけの内容になってしまっている気がする。

2.6 学習指導能力（B5）

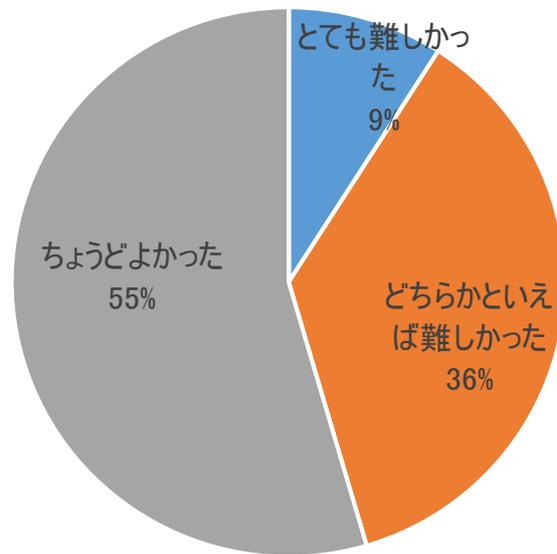
この科目の学修内容は理解できましたか。	
大いに理解できた	5
まあ理解できた	4
普通	0
少し理解できなかった	2
まったく理解できなかった	0
わからない	0



「大いに理解できた」が一番多く、「まあ理解できた」という回答者と合わせると 82 パーセントを占める。

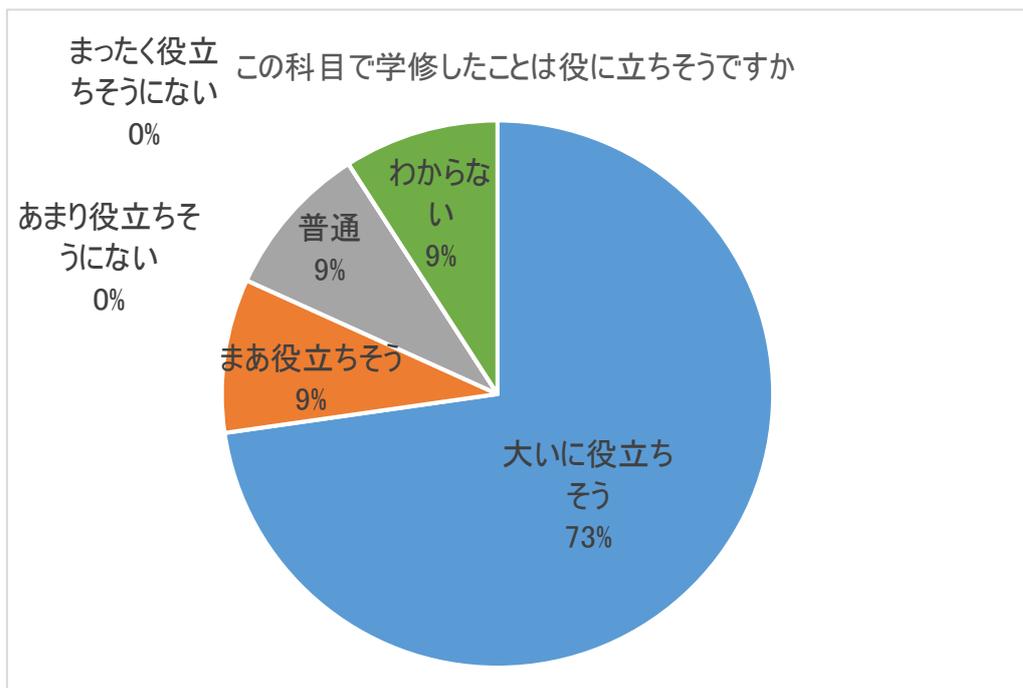
この科目の学修内容の難易度はいかがでしたか？	
とても難しかった	1
どちらかといえば難しかった	4
ちょうどよかった	6
どちらかといえば易しかった	0
とても易しかった	0
わからない	0

この科目の学修内容の難易度はいかがでしたか



「ちょうどよかった」という回答者が 55 パーセントと一番多いが、残りの回答者は、難しいと感じている。

この科目で学修したことは役に立ちそうですか。	
大いに役立ちそう	8
まあ役立ちそう	1
普通	1
あまり役立ちそうにない	0
まったく役立ちそうにない	0
わからない	1



「大いに役立ちそう」が 73 パーセントと一番多く、「まあ役立ちそう」と合わせると 82 パーセントを占める。

- ・ 意見
- 有意義な講義だった
- ・ これまでインストラクショナルデザインやアクティブラーニングなど教育技法の習得に重きを置いていたが、もっと教育者自身のコミュニケーション能力に繋がるアクションリサーチ、ラウンドテーブルを勉強していきたい。すべて平易な言葉遣いで大変理解しやすい講義でした。
- ・ 非常に分かり易く、まさに今必要なことを学ばせていただきました。ありがとうございました。
- ・ 学生への指導力向上の方法論、考え方として新しい知識を得る事が出来、直ぐにでも実践して、学びのある職場にして、学生と共に成長して行く事が出来そうです。ありがとうございました。
- ・ 事例紹介が多くあったため、理解・納得がしやすい内容だったと思います。
- ・ 日々の学生対応に追われる中で、一歩引いた視点から何をすべきか考えることは大切なことだと感じました。
- 継続して学びたい
- ・ 自分自身の自己満足が多いことが再認識できた。今後も継続的に学び続けていきたいと考える。大学院等でも積極的に学びたい。
- ・ 学習指導能力について、これまで明確に学ぶ機会がなかったため、大変勉強になりました。学生主体と言いながら、理解不足になっていた点も整理することができました。

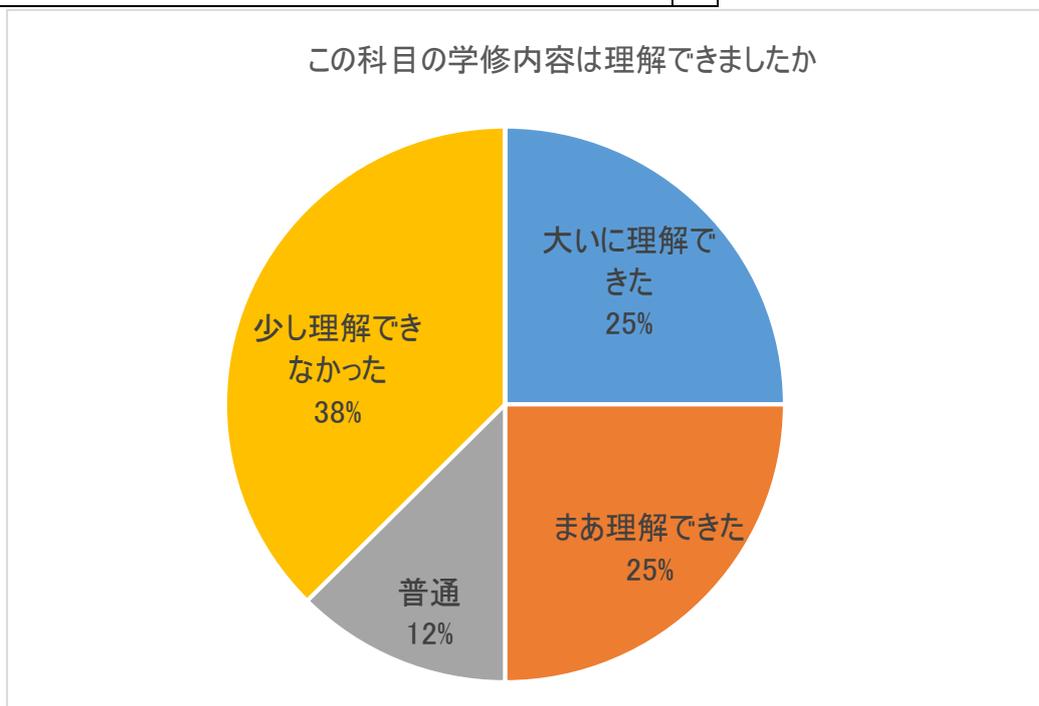
機会があるごとに、学び直しをしていきたいと思います。ありがとうございました。

➤ 要望

- ・ 薬と言えば漢方薬の様な感じで、多分即効性はないものの、続けていくうちに、長時間かけて体質改善をしていくようなものなのかなと思った。他の講座もそうだが、もう少し聞きやすい音質で録音して欲しかった。

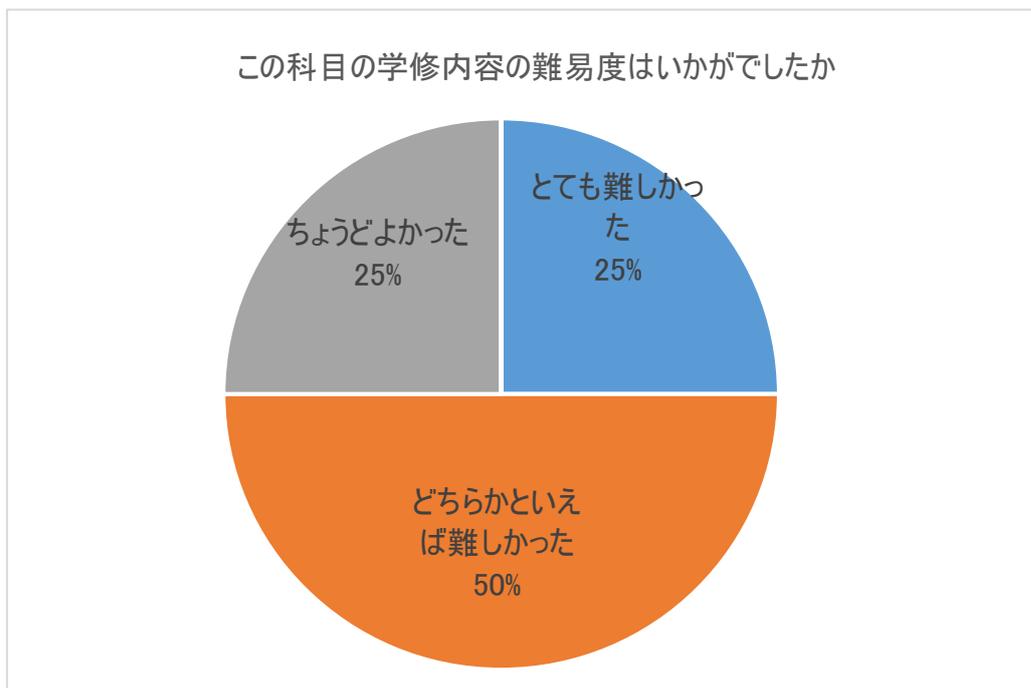
2.7 学級運営 (B6)

この科目の学修内容は理解できましたか。	
大いに理解できた	2
まあ理解できた	2
普通	1
少し理解できなかった	3
まったく理解できなかった	0
わからない	0



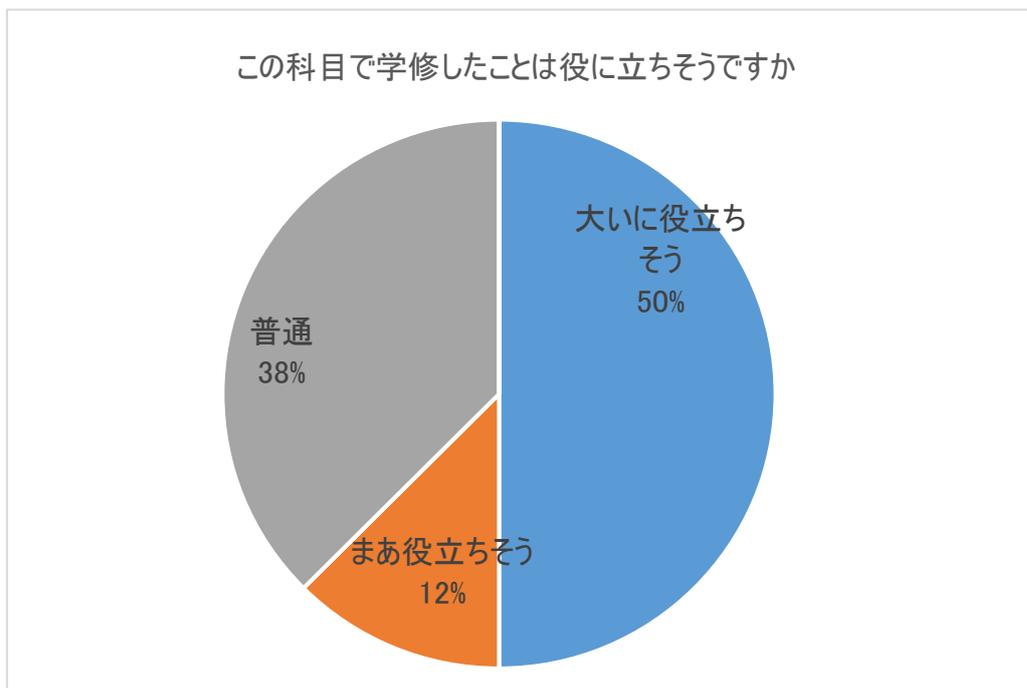
「大いに理解できた」「まあ理解できた」を合わせて 50 パーセントである反面、38 パーセントが「少し理解できなかった」と回答している。

この科目の学修内容の難易度はいかがでしたか？	
とても難しかった	2
どちらかといえば難しかった	4
ちょうどよかった	2
どちらかといえば易しかった	0
とても易しかった	0
わからない	0



「とても難しかった」と「どちらかといえば難しかった」という回答者を合わせると 75 パーセントを占める。

この科目で学修したことは役に立ちそうですか。	
大いに役立ちそう	4
まあ役立ちそう	1
普通	3
あまり役立ちそうにない	0
まったく役立ちそうにない	0
わからない	0

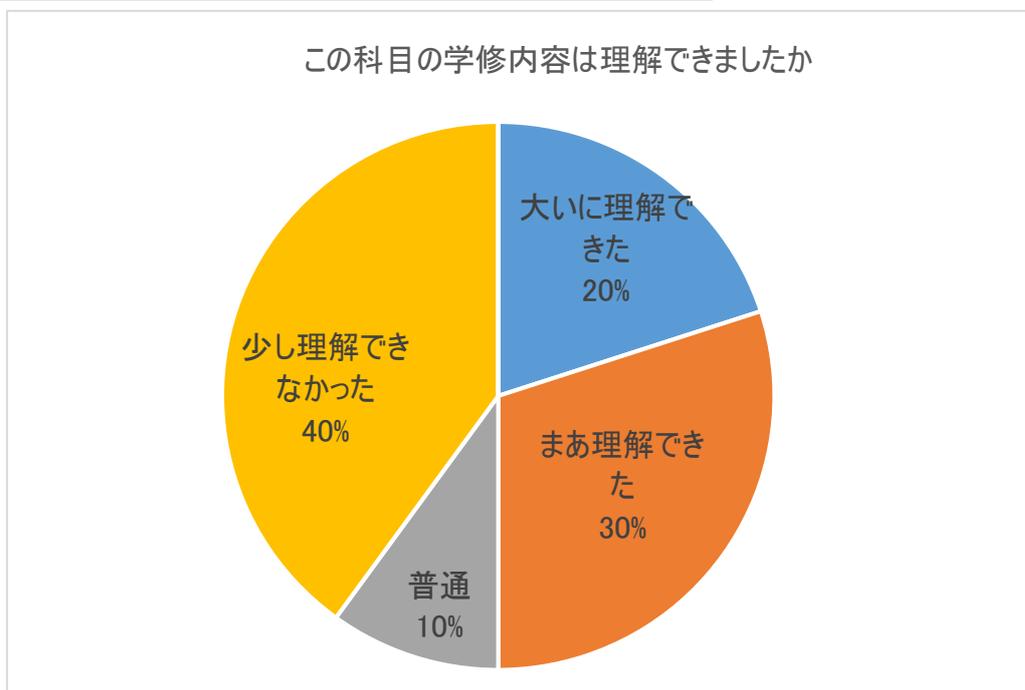


「大いに役立ちそう」「まあ役立ちそう」という回答が過半数を占めていて、役に立たないという回答はない。

- 意見
- 参考になった
 - ・ 「百姓は田を作り米は田が作る」という言葉に感銘をうけました。
 - ・ クラス運営の視点は、学校全体として課題となる点です。教員の力ではなく、学生同士が相互に高め合う組織になるためにどのように関わっていくべきなのか、答えはありません。その点において、今回の科目でクラス運営とはどういうことなのかを学ぶことができ、大変感謝申し上げます。これからも、学校全体の課題としてクラス運営の在り方を検討し続けていきたいと思えます。ありがとうございました。
 - ・ クラス運営について改めてよくよく考えさせられました。ありがとうございました。
 - ・ 学びの場を整える学校・教員は、その年の学生、クラス毎に毎回違ったアプローチで対応する必要があり、学校として、教員としてあるいは職員としての共有・協働が大変重要だと感じました。
- 継続して学びたい
 - ・ 自身について、自己満足の指導が多分にある事を反省をした。今後はチャンスがあれば大学院等でも積極的に学んで行きたいと考える。

2.8 IT 活用教育実践 (B7)

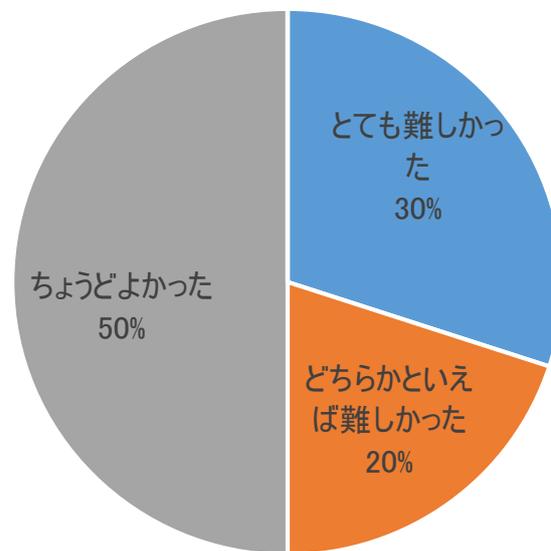
この科目の学修内容は理解できましたか。	
大いに理解できた	2
まあ理解できた	3
普通	1
少し理解できなかった	4
まったく理解できなかった	0
わからない	0



「大いに理解できた」「まあ理解できた」という回答を合わせると 50 パーセントだが、「少し理解できなかった」という回答者も 40 パーセントいる。

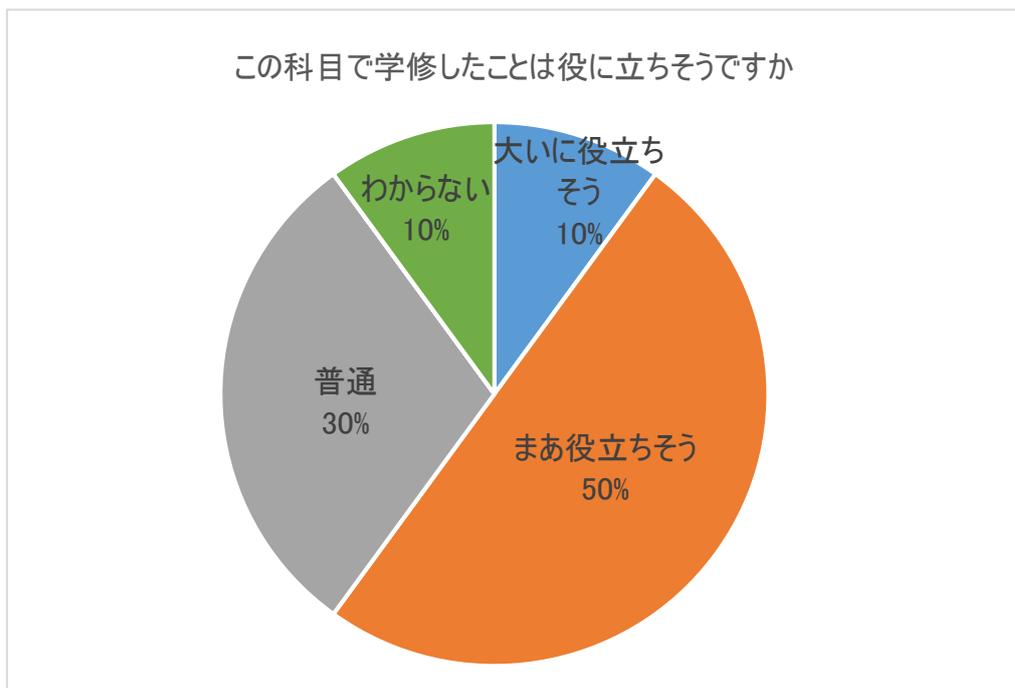
この科目の学修内容の難易度はいかがでしたか？	
とても難しかった	3
どちらかといえば難しかった	2
ちょうどよかった	5
どちらかといえば易しかった	0
とても易しかった	0
わからない	0

この科目の学修内容の難易度はいかがでしたか



易しいと感じる回答者はおらず、「とても難しかった」「どちらかといえば難しかった」という回答と「ちょうどよかった」という回答が半々となっている。

この科目で学修したことは役に立ちそうですか。	
大いに役立ちそう	1
まあ役立ちそう	5
普通	3
あまり役立ちそうにない	0
まったく役立ちそうにない	0
わからない	1



「まあ役立ちそう」が 50 パーセントと一番多い。

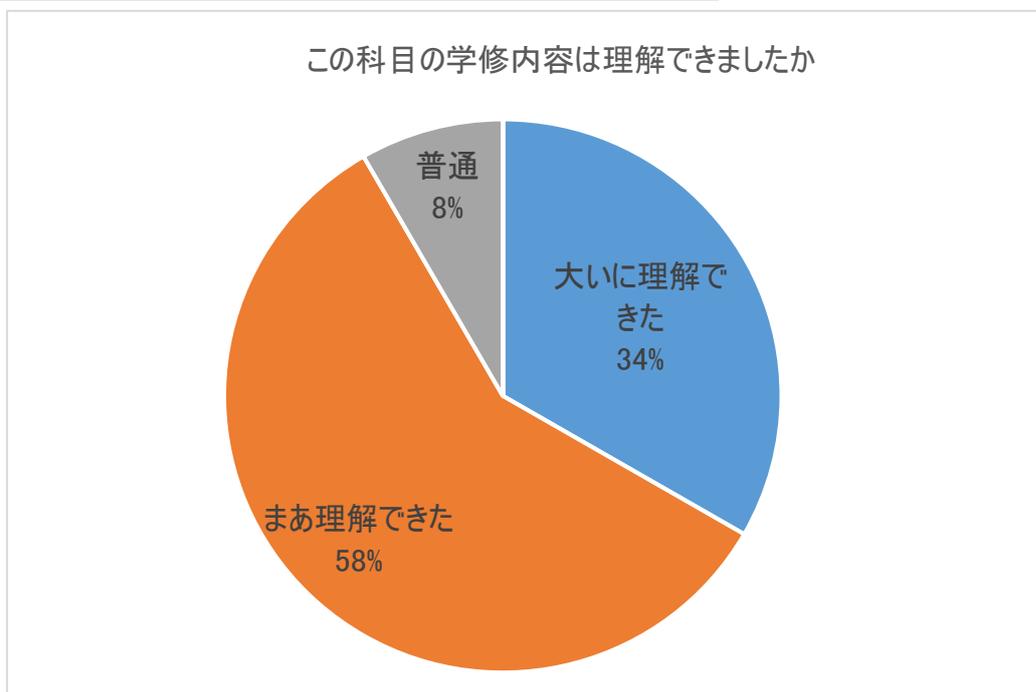
- 意見
- 参考になった
- 専修学校であります。本校での導入は現段階では簡単ではありません。しかしながら、考え方やどのような視点で考えればよいのかは大変整理ができたと思っています。IT 活用もこれから課題となるわけですが、今後の学校運営を検討していく際に、常に意識していきたいと思えます。ありがとうございました。
- 自分自身の IT スキルだけでなく、学校全体の文化や習慣も含めて IT 活用を考えるべきであるという第 3 回の講義は特に考えさせられる内容でした。
- IT の必要性・重要性をあらためて確認しました。講義にあったようにトライ&エラーも重要に思いますが、一方で時間に限りもあるので悩ましいところです。スクラッチがインターネットエクスプローラーではできず、何にどのように手をつければよいか分からず困りましたが、エッジにてなんとかプログラム体験もできました。
- 継続して学びたい
- 内容が、難しく、今後の自身の教員生活への「不安」を感じる面が多くあった。しかしチャンスがあれば IT に関しては積極的に学びたい。
- 要望
- 発声も聞きやすく明快であったと思うが、内容が、大きな発想ややり方の転換を求めるものなので、もう少し具体性のある内容だとより良かった。それぞれの重要性は理解出来ても、具体的に何をどの様に進めたら良いか、までには大きな飛躍があり、そこがなかなか埋められない。

➤ その他

- ・ 分野によるが専門知識はあれど教授法が自己流の教員が多い。多くは自分が受けてきた講義のコピーに終始し、基本である PC の扱いもままならない教員のために IT 知識を持つ教職員の負担大。講義の内容は良く理解できたが、道程は遠いと感じる。

2.9 教育課程編成委員会・学校関係者評価の運用 (C1)

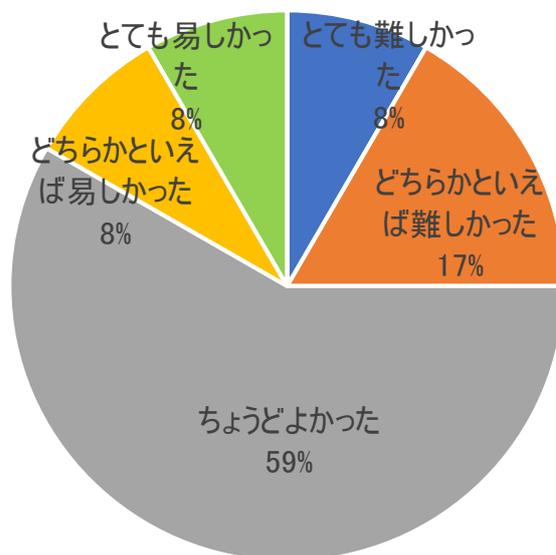
この科目の学修内容は理解できましたか。	
大いに理解できた	4
まあ理解できた	7
普通	1
少し理解できなかった	0
まったく理解できなかった	0
わからない	0



「大いに理解できた」「まあ理解できた」を合わせると 92 パーセントで、大半が理解できていることが分かる。

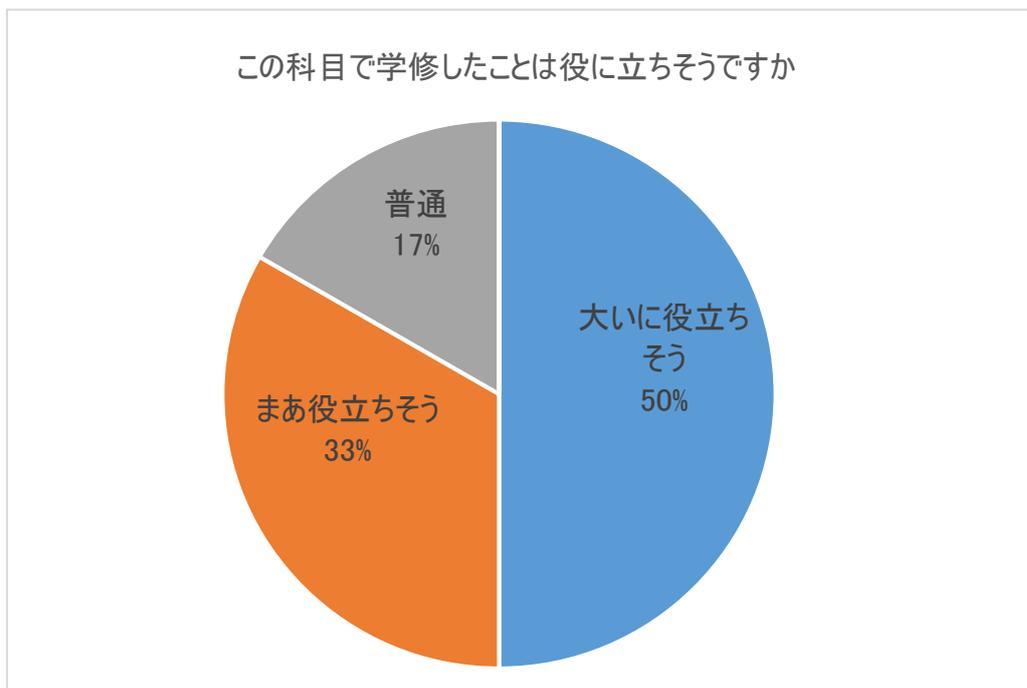
この科目の学修内容の難易度はいかがでしたか？	
とても難しかった	1
どちらかといえば難しかった	2
ちょうどよかった	7
どちらかといえば易しかった	1
とても易しかった	1
わからない	0

この科目の学修内容の難易度はいかがでしたか



「ちょうどよかった」という回答が 59 パーセントで一番多い。

この科目で学修したことは役に立ちそうですか。	
大いに役立ちそう	6
まあ役立ちそう	4
普通	2
あまり役立ちそうにない	0
まったく役立ちそうにない	0
わからない	0

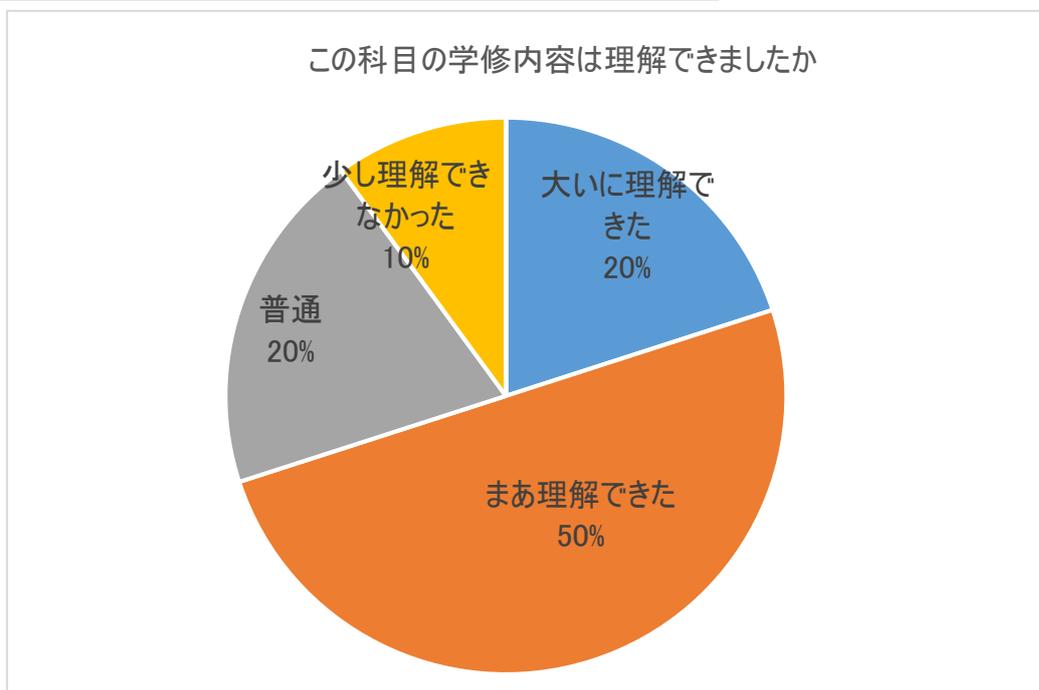


「大いに役立ちそう」が 50 パーセントで「まあ役立ちそう」と合わせると 83 パーセントを占める。

- 意見
 - 参考になった
 - ・ 今まであまり考えたことがなかったが、今後はしっかりと学びたい。
 - ・ 既に認定申請可能な学科は全て職業実践専門課程の認定を受けていますが、他校の情報公開 HP を閲覧すると内容が古いものも相当数あります。フォローアップも始まり改めて問う講義の内容通り整備されているか事項をチェックしたいと思います。
 - ・ 改めて認識する機会となりました。ありがとうございました。
 - ・ 私自身が担当する学科も、次年度より教育課程編成委員会の申請をいたします。そのための準備期間である現在、とても参考になる資料と解説でありました。
 - ・ 資料の最終ページの図は、常々疑問に思っていたことであつたので大いに参考になった。
 - ・ 学校内部による評価だけでなく、外部からの評価、意見をいただくことでよりよく改善に取り組める感じました。
 - その他
 - ・ スマートフォンで動画を視聴した際に資料の文字が小さく多少見にくい箇所はありましたが、内容は非常にわかりやすかったと思います。

2.10 説明責任と情報公開 (C2)

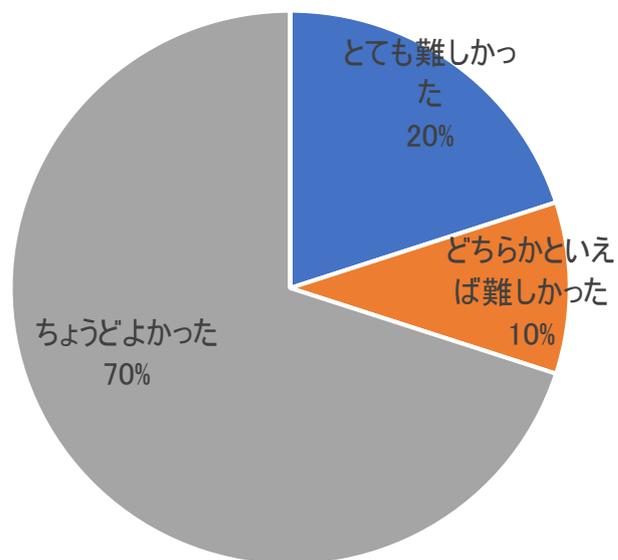
この科目の学修内容は理解できましたか。	
大いに理解できた	2
まあ理解できた	5
普通	2
少し理解できなかった	1
まったく理解できなかった	0
わからない	0



「まあ理解できた」が 50 パーセントで、「大いに理解できた」と合わせると 70 パーセントを占める。

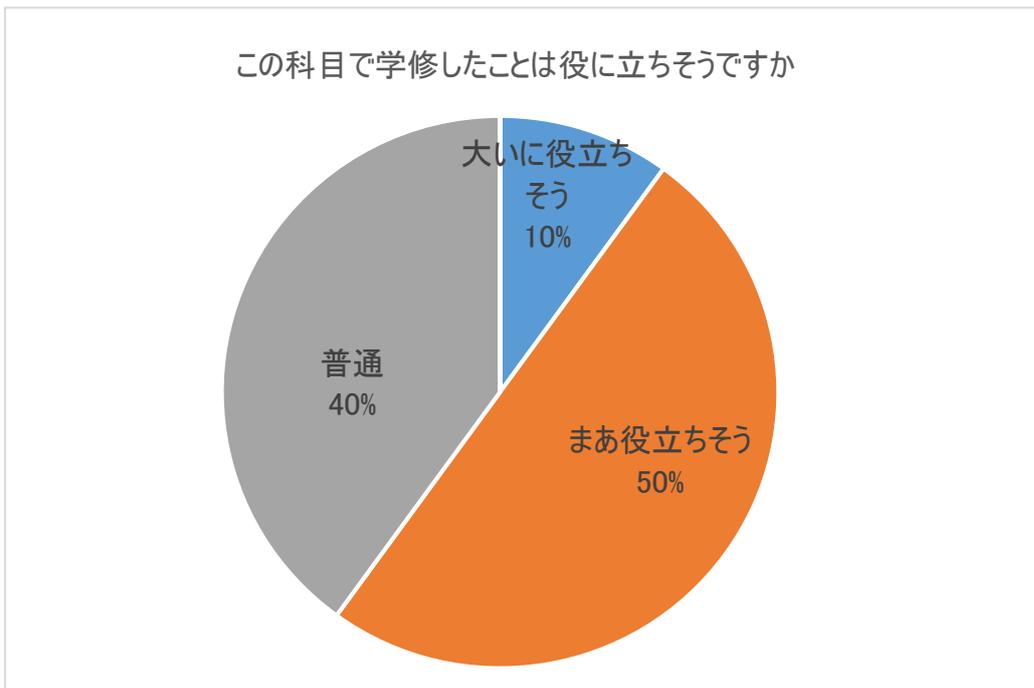
この科目の学修内容の難易度はいかがでしたか？	
とても難しかった	2
どちらかといえば難しかった	1
ちょうどよかった	7
どちらかといえば易しかった	0
とても易しかった	0
わからない	0

この科目の学修内容の難易度はいかがでしたか



「ちょうどよかった」という回答が 70 パーセントと一番多い。

この科目で学修したことは役に立ちそうですか。	
大いに役立ちそう	1
まあ役立ちそう	5
普通	4
あまり役立ちそうにない	0
まったく役立ちそうにない	0
わからない	0

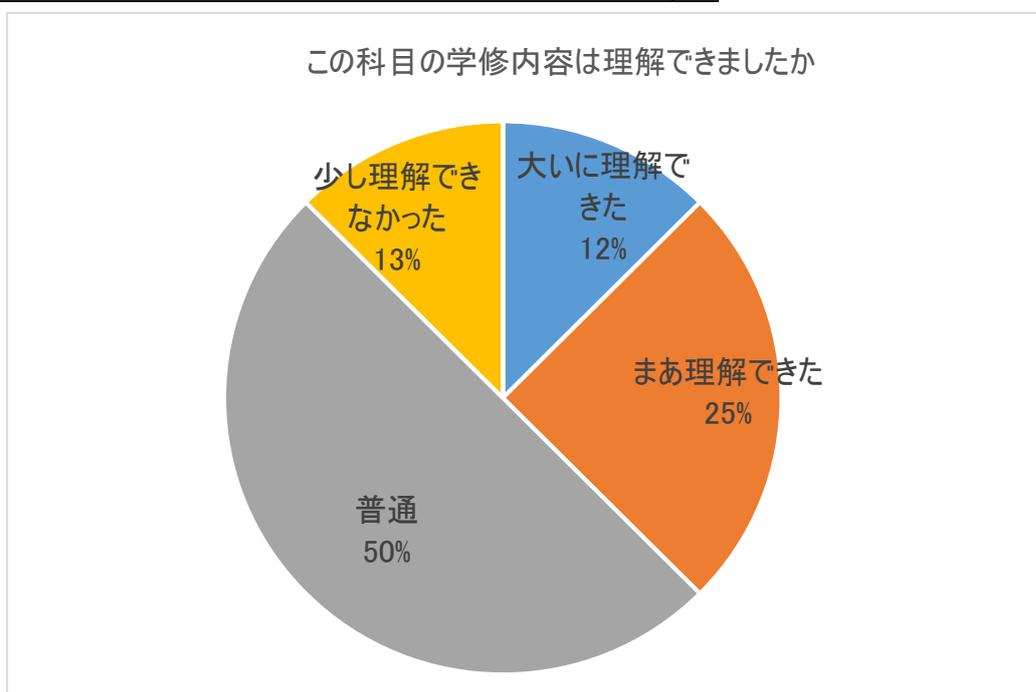


役に立たないという回答はなく、「まあ役立ちそう」が 50 パーセントで一番多い。

- 意見
 - 有意義な講義だった
 - ・ 現在の自身には直接関連はなかったが、重要な内容と考えるので、今後もしっかりと学びを継続したい。
 - ・ 情報化の急速な進展に伴うコンプライアンス意識の広がり大きく今後さらに社会の中の公共的な存在としての学校の立ち位置が学べたと思います。
- 要望
 - ・ 説明責任と情報公開の整理ができました。1点、説明責任の演習は、事例を設定してもらえると良いと思います。今回は少なくとも学校教育機関である以上、それに見合う演習設定で、理解を深めたいと感じました。

2.11 質保証の実務 (D2)

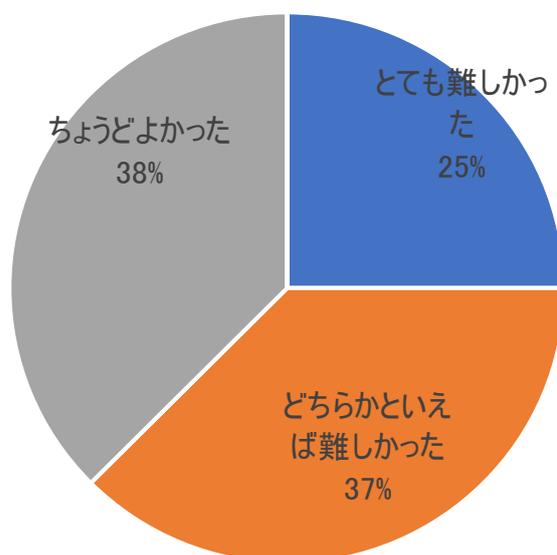
この科目の学修内容は理解できましたか。	
大いに理解できた	1
まあ理解できた	2
普通	4
少し理解できなかった	1
まったく理解できなかった	0
わからない	0



「普通」という回答者が 50 パーセントと一番多い。理解できないという回答よりは、理解できるという回答の方が若干多い。

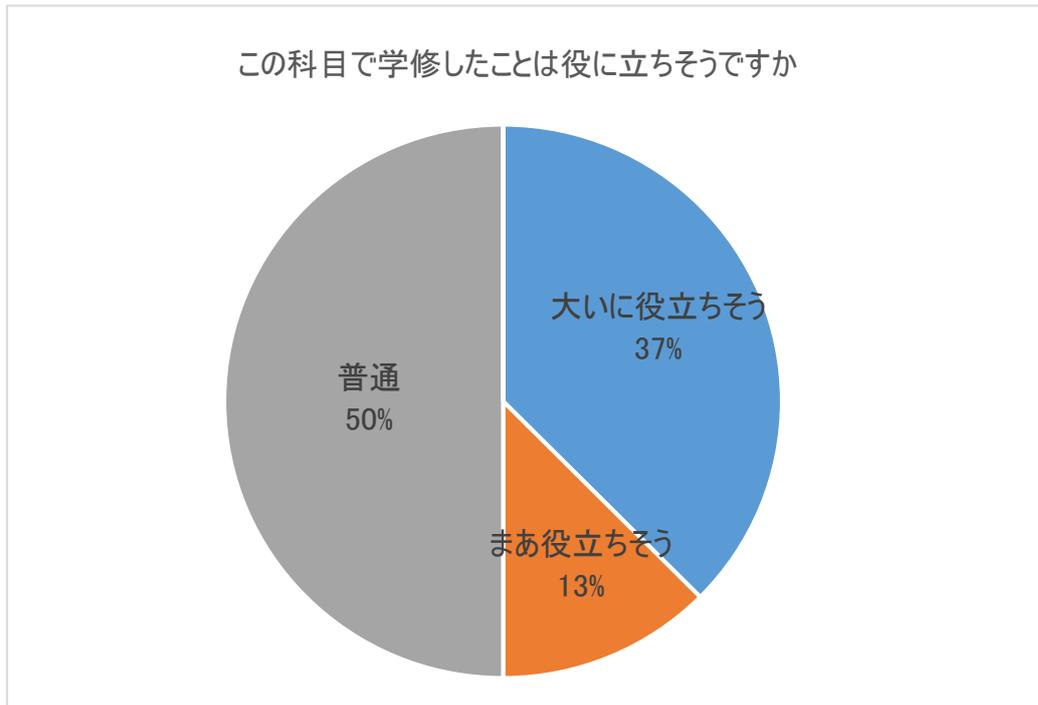
この科目の学修内容の難易度はいかがでしたか？	
とても難しかった	2
どちらかといえば難しかった	3
ちょうどよかった	3
どちらかといえば易しかった	0
とても易しかった	0
わからない	0

この科目の学修内容の難易度はいかがでしたか



「とても難しかった」「どちらかといえば難しかった」という回答者を合わせて 62 パーセントになっている。

この科目で学修したことは役に立ちそうですか。	
大いに役立ちそう	3
まあ役立ちそう	1
普通	4
あまり役立ちそうにない	0
まったく役立ちそうにない	0
わからない	0

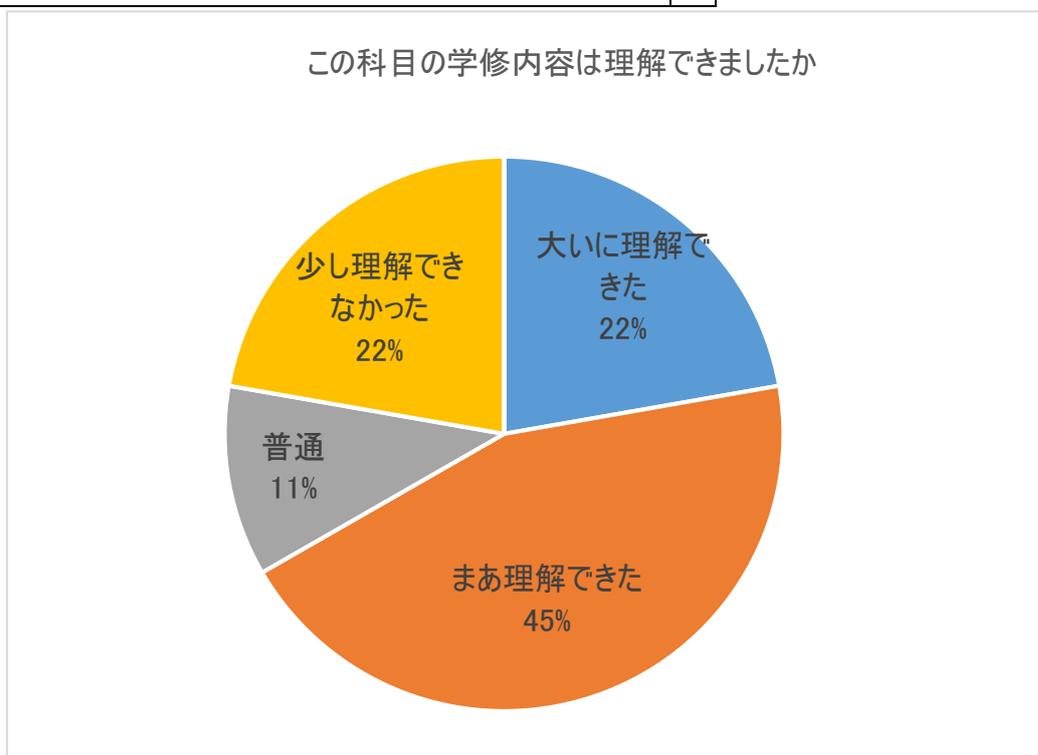


「大いに役立ちそう」と「まあ役立ちそう」を合わせて 50 パーセントである。役立たないという回答は 0 である。

- 意見
 - 参考になった
 - 今まで、管理職でもなく、真剣に考える事が無かった。よって今後はしっかりと学びたい。
 - 第 1 回と第 2 回は実際に研修でお聞きしていたので取り組みやすかったです。いずれ第三者評価受審を予定していますので大いに参考になりました。
 - 各基準の観点からあらためて自校について確認することができ、今後よりよい学校をめざす指針とすることができました。
 - その他
 - **QAPHE** として演習されているのかと感ずるところもあり、科目のボリュームに違和感がありました。
 - 講義内容に対して問う様な演習問題の方が良い。後半の演習問題は重たい。

2.12 キャリアフレームワークに関する知識（E2）

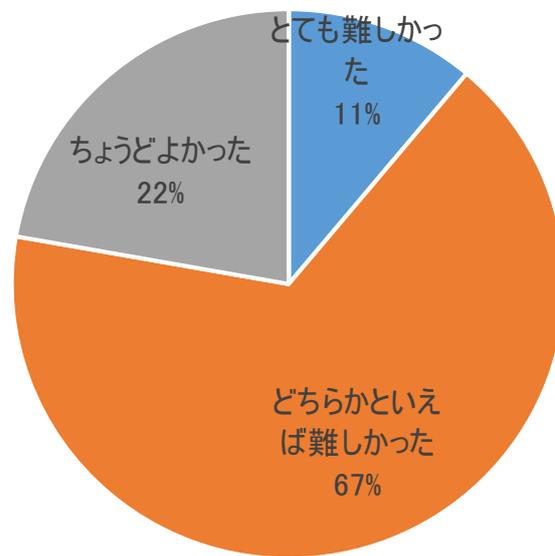
この科目の学修内容は理解できましたか。	
大いに理解できた	2
まあ理解できた	4
普通	1
少し理解できなかった	2
まったく理解できなかった	0
わからない	0



「大いに理解できた」「まあ理解できた」という回答を合わせて 67 パーセントとなっている。「少し理解できなかった」という回答も 22 パーセントある。

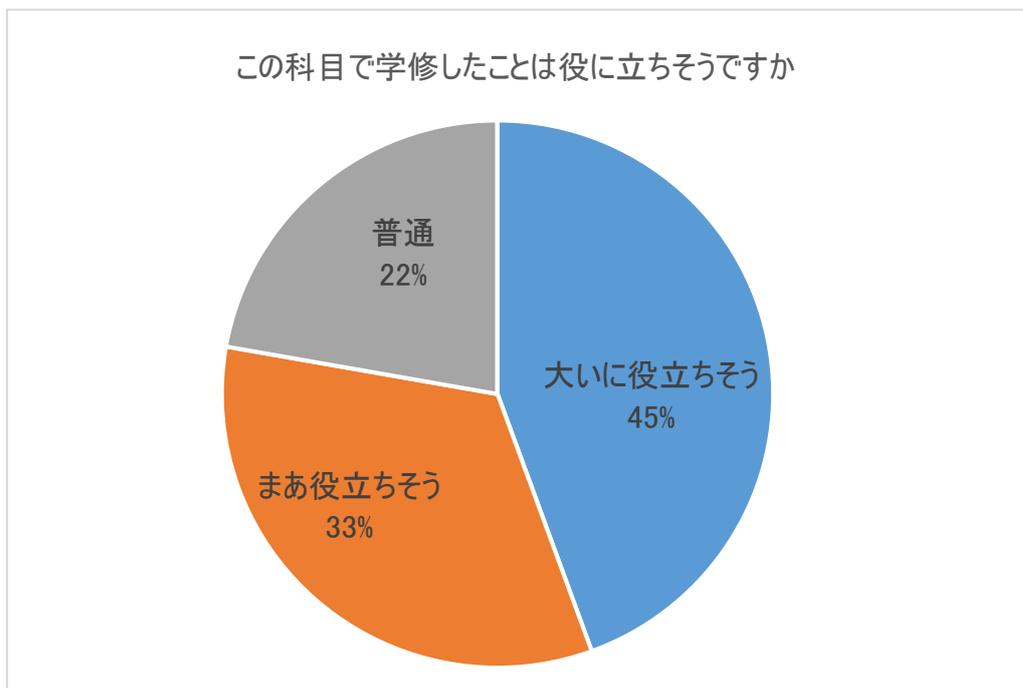
この科目の学修内容の難易度はいかがでしたか？	
とても難しかった	1
どちらかといえば難しかった	6
ちょうどよかった	2
どちらかといえば易しかった	0
とても易しかった	0
わからない	0

この科目の学修内容の難易度はいかがでしたか



「どちらかといえば難しかった」という回答が 67 パーセントと一番多く、「とても難しかった」を合わせると 78 パーセントを占める。

この科目で学修したことは役に立ちそうですか。	
大いに役立ちそう	4
まあ役立ちそう	3
普通	2
あまり役立ちそうにない	0
まったく役立ちそうにない	0
わからない	0

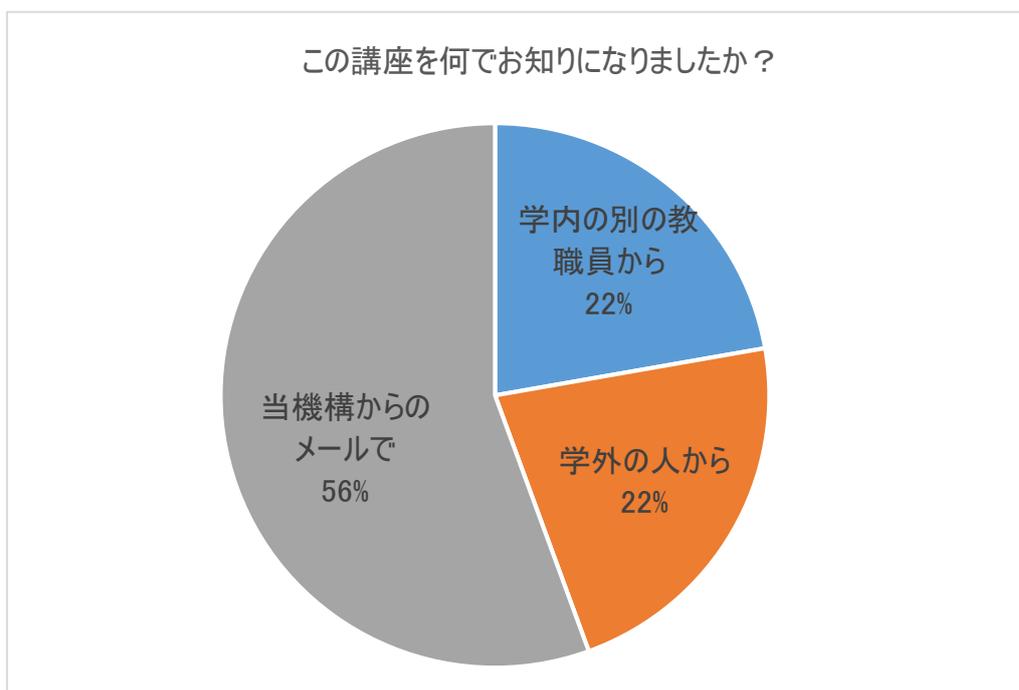


「大いに役立ちそう」と「まあ役立ちそう」の回答者を合わせると 78 パーセントと多い。役立たないという回答はない。

- 意見
- 今まで考えたことがない内容であり、今後は継続的に学びたい。
- キャリアフレームワークという概念そのものが、現在の教員には聞きなれないことであると思います。職業教育を行う、我々専修学校の教員は、このことに視点を持つべきであると理解できました。企業間連携の本質は、この点にもあるのでしょうか。この学びを教職員と共有して、より良い教育の改善に役立てたいと思います。ありがとうございました。
- 世界的に学修成果を重要視していることがよく分かりました。学修成果の指標をしっかり作りあげ活用することで学修者にとっても学校側にとってもたくさんの利点があることが分かりました。

2.13 全体アンケート

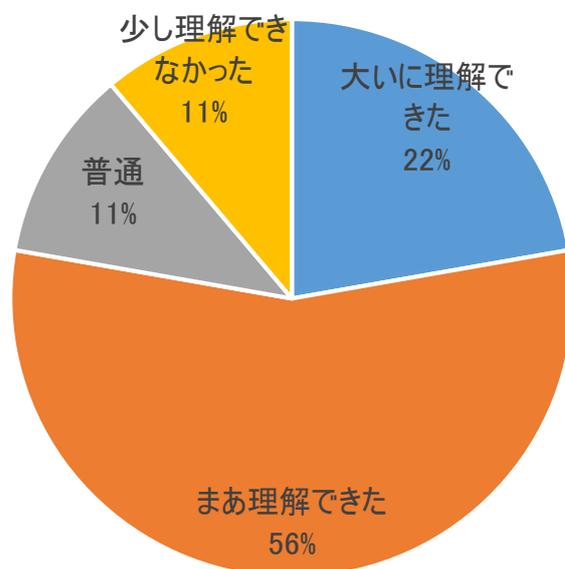
この講座を何でお知りになりましたか？	
学内の別の教職員から	2
学外の人から	2
当機構からのメールで	5



当機構からの案内で講座を知った回答者が一番多く 56 パーセントを占める。

全体を通して、この講座の学修内容は理解できましたか。	
大いに理解できた	2
まあ理解できた	5
普通	1
少し理解できなかった	1

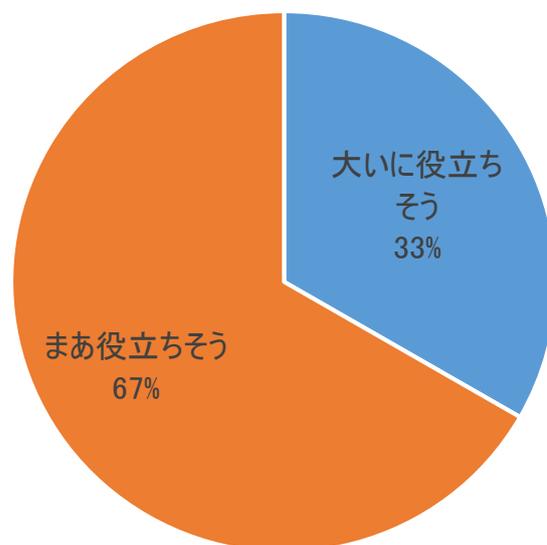
全体を通して、この講座の学修内容は理解できましたか。



「まあ理解できた」が 56 パーセントと一番多く、「大いに理解できた」と合わせると 78 パーセントとなり、「少し理解できなかった」という回答者 11 パーセントに比べ顕著に多い。

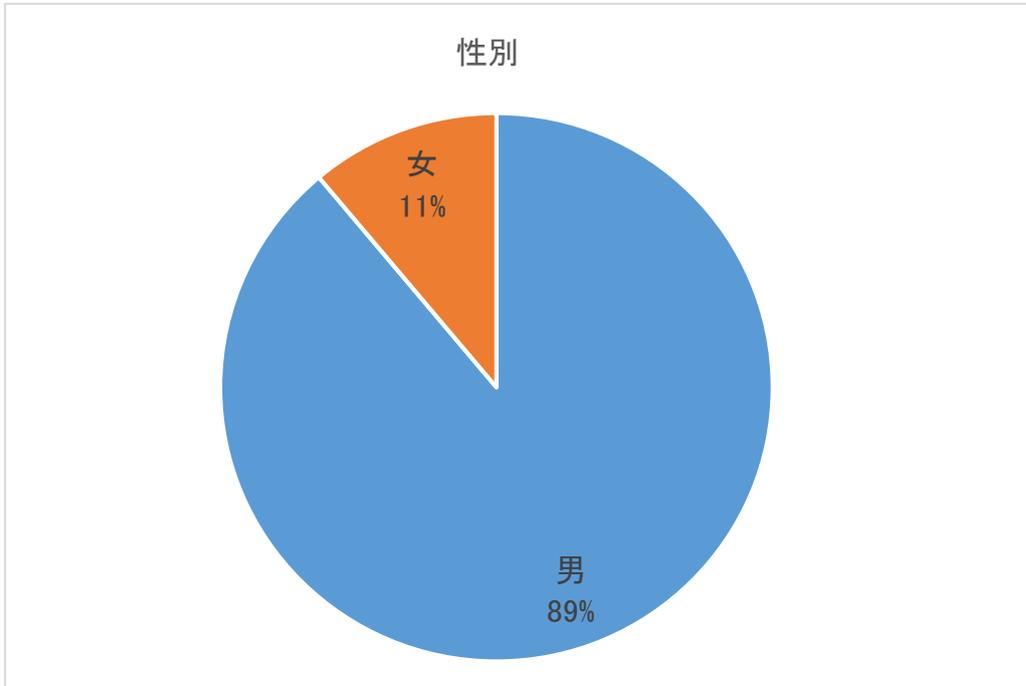
全体を通して、この講座で学修したことは役に立ちそうですか。	
大いに役立ちそう	3
まあ役立ちそう	6

全体を通して、この講座で学修したことは役に立ちそうですか。

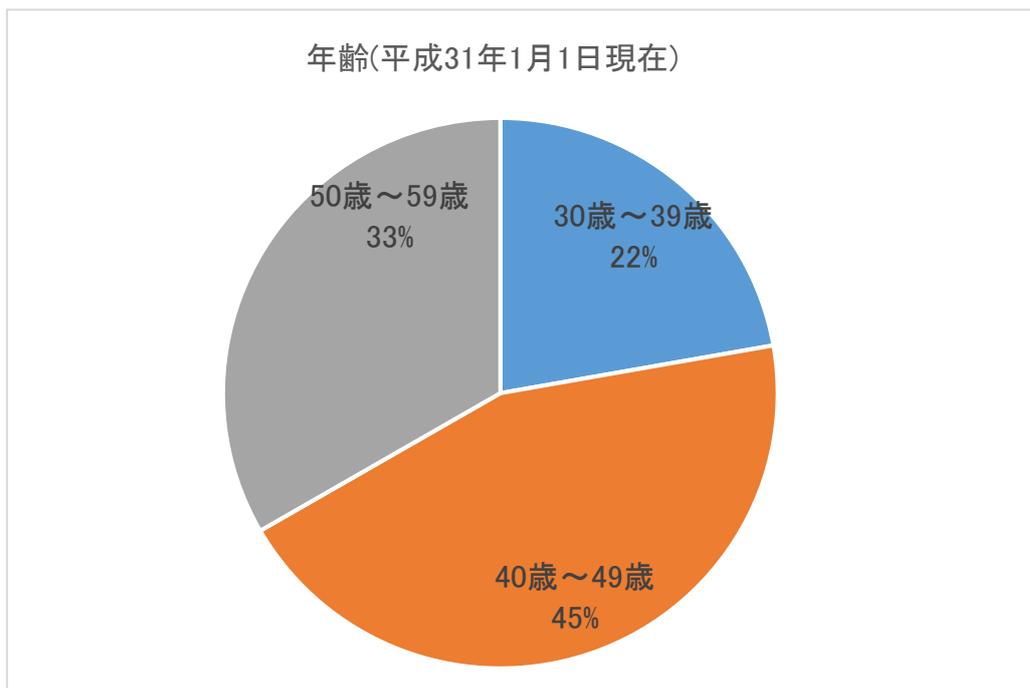


100 パーセントの回答者が役に立つと感じている。

あなたの性別を選んでください。	
男	8
女	1



平成 31 年 1 月 1 日現在のあなたの年齢を選んでください。	
30 歳～39 歳	2
40 歳～49 歳	4
50 歳～59 歳	3



・ 1本の動画再生時間

「ちょうどよい」と「もう少し短くてよい（10分～20分程度）」の意見が大半だった。

参考意見

- ・ 録画録音が、もう少し良い環境で行ってほしい。
- ・ PDFで事前に手元に見ながらの学習が行えたため、非常に取り組みやすかった。
- ・ 周囲の雑音が入って、聞き取りづらい点もあったので、改善してほしい。
- ・ 30分は集中が切れず良いと思った。
- ・ 10分を目安に作成した方がよい。動画の本数は増えてしまうが、隙間時間でも学修出来る。
- ・ 40分を超えるような再生時間になるのであれば2コマに分ける方がよい。

・ 講座に追加してほしい科目や学修内容のイメージ

次のような記述があった。

- ・ IT機器を利用した講座。
- ・ カウンセリングや発達障害など現在の教育現場で多く見られる解決の糸口になる講座。
- ・ アンガーマネジメント。
- ・ コーチング。

- ・ 第三者評価のエビデンスとなりうる具体的な書類フォーム例を残せる講座。
- ・ 学校運営・授業運営実務的なもの。
- ・ カウンセリング能力、ファシリテーションをさらに学修。
- ・ 各科目における成功事例。

・ オンライン学修システムについて改善の要望

次のような記述があった。

- ・ IT を駆使してもらいたい。
- ・ 記述式が多く、演習で求める回答のボリュームに差がありすぎる。レポートのような内容まで求める必要はあるのか。
- ・ 若干音声聞き取りづらい講座（教室の中で音がこもっているような？）がある。
- ・ 再生スピードを速める機能（倍速再生）があると忙しい中でも受講できる。
- ・ 演習課題が最後についているが、映像を見れば答えられる様な物にして欲しい。何を答えてよいか分かりにくいものも多く、そこで学修のリズムが途切れてしまいやる気を失う。ちゃんと視聴し理解すれば、容易に答えられる様な物にして欲しい。
- ・ 未受講の講座のみを表示するようなフィルタリングの機能があると残りが視覚的に把握しやすくなり、計画を立てやすくなる。
- ・ ダッシュボードなど色々な項目の使用法が分からない。バッジもどのように管理するのか。
- ・ 10月の案内メールでは、約半年ほどしか受講期間がない。もう少し余裕を持って受講できるようにしてほしい。

**・ (教員の場合)あなたが受け持っている科目名を挙げてください。
(職員の場合)あなたの主な職務を挙げてください。**

受け持ち科目名には次のような記述があった。

- ・ 調理実習
- ・ 情報処理概論
- ・ 介護の基本・コミュニケーション技術・レクリエーション実践・健康科学
- ・ 理容技術理論・理容実習・文化論・総合技術
- ・ 解剖学・生理学・病理学
- ・ CGリテラシー、パソコンリテラシー、ネットワークリテラシー、WEBサイトデザイン、クリエイティブ制作演習、デジタル制作リテラシー、CG実習、業務演習、ゲーム

プログラミング、映像編集技術

- ・ アルゴリズム、Javaプログラミング、SQL、セキュリティ、国家試験対策
- ・ 理容技術理論、理容実習、運営管理
- ・ オフィス活用、秘書技能、ファイナンシャル・プランナー

主な役職には次のような記述があった。

- ・ 事務部長
- ・ 副学校長
- ・ 学務局長

2.14 フリーアンサーのテキストマイニング

前節まで示してきたすべてのアンケートの「フリーアンサー」を、一つのテキストとして取り扱い、どのような単語がどれくらい登場していたかを集計し、その結果から、あらためて受講者の意見の傾向を見たり、見落とした意見がないかを調べたりする目的で、テキストマイニングを行い、品詞別・単語ごとの出現回数を集計した(テキストマイニング)。次の表は、主な品詞の集計結果である。

名詞	サ変名詞	形容動詞	副詞可能	動詞	形容詞	副詞	動詞 B	名詞 C
内容	34 理解	26 大変	9 今後	20 思う	52 良い	21 もう少し	8 する	140 例
学校	21 教育	18 重要	7 時間	12 感じる	22 多い	15 改めて	5 ある	47 音
学生	19 演習	15 必要	7 今	6 学ぶ	20 長い	4 常に	4 なる	31 質
教員	14 講義	13 非常	6 現在	4 考える	20 難しい	4 特に	4 できる	30 人
具体	13 学習	11 不安	3 今回	4 分かる	11 無い	4 実際	3 よる	6 気
障害	10 実践	11 プロフェッショナル	2 全体	4 出来る	9 易い	2 少し	3 わかる	5 田
課題	9 授業	10 可能	2 それぞれ	3 持つ	7 新しい	2 大いに	3 いただける	3 回
動画	9 運営	9 貴重	2 場合	3 見る	6 深い	2 終始	2 しれる	2 学
クラス	8 学修	9 残念	2 日々	3 求める	5 大きい	2 一方で	1 つける	2 胸
映像	8 発達	9 大切	2 すべて	2 行う	5 悪い	1 引き続き	1 なれる	2 苦
科目	8 整理	8 短め	2 多く	2 取り組む	5 遠い	1 既に	1 まとめる	2 後
自身	8 対応	7 丁寧	2 直接	2 増える	5 何気ない	1 幸い	1 いう	1 差
能力	8 改善	6 適当	2 途中	2 答える	5 強い	1 更に	1 いたす	1 座
機会	7 再生	6 明確	2 たくさん	1 聞く	5 見にくい	1 再度	1 いただく	1 次
講座	7 参考	6 まし	1 結果	1 問う	4 古い	1 実に	1 いる	1 軸
視点	7 指導	6 スマート	1 月頃	1 活かす	3 好ましい	1 少なくとも	1 うける	1 手
自分	7 受講	6 完璧	1 後半	1 含める	3 高い	1 多少	1 おこなう	1 場
専門	7 評価	6 簡単	1 再度	1 作る	3 重い	1 多分	1 かかる	1 身
事例	6 向上	5 肝心	1 昨今	1 受ける	3 重たい	1 単に	1 かける	1 図
知識	6 作成	5 疑問	1 若干	1 深める	3 小さい	1 直ぐに	1 きる	1 数
カリキュラム	5 お願い	4 急速	1 前後	1 続ける	3 少ない	1 本当に	1 こもる	1 先
感じ	5 デザイン	4 健康	1 全て	1 置く	3 正しい	1	つかむ	1 他
考え方	5 意識	4 個別	1 全部	1 分ける	3 低い	1	つく	1 頭
資料	5 活用	4 自由	1 長時間	1 聞き取る	3 悩ましい	1	つくりあげる	1 年
自己	5 検討	4 色々	1 本来	1 スる	2 忙しい	1	にる	1 仏
積極	5 実習	4 真剣	1 毎回	1 育てる	2 望ましい	1	はいる	1 変
カウンセリング	4 説明	4 正直	1	1 関わる	2		めざす	1 面
チャンス	4 認識	4 多め	1	1 繰り返す	2		もらえる	1 薬
音質	4 満足	4 多忙	1	1 言う	2			1 力
技術	4 リンク	3 大事	1	1 行える	2			1 霧
雑音	4 確認	3 同様	1	1 高める	2			

名詞		サ変名詞		形容動詞		副詞可能	動詞	形容詞	副詞	動詞 B	名詞 C
情報	4	管理	3	特別	1		取り組める				
大学院	4	記述	3	煩雑	1		申し上げる				
単位	4	継続	3	不具合	1		進める				
理容	4	支援	3	不親切	1		切れる				
グループ	3	紹介	3	平易	1		聴く				
コマ	3	勉強	3	明快	1		超える				
課程	3	面談	3	有意義	1		頂ける				
学び	3	録音	3	容易	1		読む				
教職員	3	プログラミング	2	様々	1		入る				
業務	3	プログラム	2				変わる				
職員	3	位置	2				縫う				
職業	3	意見	2				望む				
成果	3	意味	2				違う				
先生	3	会議	2				引く				
方法	3	解答	2				越える				
理論	3	回答	2				沿う				
CG	2	感謝	2				応じる				
あり方	2	機能	2				解る				
コミュニケーション	2	共有	2				開ける				
システム	2	経験	2				学べる				
スキル	2	研修	2				楽しむ				
ポリウム	2	公開	2				頑張る				
ワーク	2	視聴	2				願う				
違和感	2	試験	2				起こる				
学科	2	集中	2				及ぶ				
環境	2	準備	2				急ぐ				
関心	2	申請	2				挙げる				
企業	2	制作	2				強いる				
基本	2	成功	2				教える				
期間	2	設定	2				携わる				
技法	2	専修	2				繋がる				
隙間	2	総合	2				結びつける				
現場	2	増加	2				結び付く				
現状	2	対話	2				見合う				
項目	2	抽象	2				見直す				
最後	2	訂正	2				言える				
事前	2	導入	2				限る				
社会	2	認定	2				戸惑う				
車椅子	2	反省	2				誤る				
手元	2	負担	2				交える				
周囲	2	要求	2				向き合う				
責任	2	録画	2				向ける				
第三者	2	アップ	1				行く				
答え	2	アプローチ	1				困る				

名詞		サ変名詞		形容動詞	副詞可能	動詞	形容詞	副詞	動詞 B	名詞 C
年度	2	エラー	1			残せる	1			
分野	2	コピー	1			始まる	1			
文化	2	サポート	1			失う	1			
本数	2	チェック	1			書く	1			
目安	2	トライ	1			乗り遅れる	1			
やり方	1	トレーニング	1			深まる	1			
やる気	1	ミス	1			整える	1			
アクション	1	メール	1			生かす	1			
アルゴリズム	1	リサーチ	1			生かせる	1			
アンケート	1	レポート	1			生きる	1			
エイト	1	扱い	1			積む	1			
エッジ	1	暗記	1			増やす	1			
エビ	1	案内	1			速める	1			
オフィス	1	閲覧	1			置き換える	1			
キーワード	1	押し売り	1			着ける	1			
キャリア	1	介護	1			頂く	1			
クラッチ	1	解決	1			追う	1			
クリ	1	解説	1			掴む	1			
クリック	1	解剖	1			伝える	1			
ゲーム	1	改革	1			伝わる	1			
コツ	1	開発	1			途切れる	1			
コンテンツ	1	概論	1			努める	1			
ゴール	1	該当	1			得る	1			
サイト	1	完結	1			突き放す	1			
ジグソー	1	感銘	1			伴う	1			
スピード	1	観察	1			放り出す	1			
セキュリティ	1	関連	1			忘れる	1			
ゼミ	1	寄与	1			埋める	1			
ソフトウェア	1	期待	1			目指す	1			
ダッシュボード	1	記憶	1			問いかける	1			
チャイム	1	共感	1			役に立つ	1			
テーブル	1	苦慮	1			役立てる	1			
テーマ	1	駆使	1			立つ	1			
デジタル	1	計画	1			立てる	1			
ハードウェア	1	誤解	1			論じる	1			
ハードル	1	誤信	1			話す	1			
バグ	1	工夫	1							
バリアフ	1	採用	1							

名詞		サ変 名詞	形容 動詞	副詞 可能	動詞	形容詞	副詞	動詞 B	名詞 C
リー									
ヒント	1	在籍	1						
フィルタ	1	仕事	1						
フォーム	1	使用	1						
フォロー アップ	1	思考	1						
フォン	1	思索	1						
フレーム	1	指摘	1						
プランナ ー	1	失敗	1						
ページ	1	質問	1						
ラウンド	1	実感	1						
リズム	1	受審	1						
リング	1	習得	1						
レクリエ ーション	1	出入り	1						
委員	1	省察	1						
一つ	1	進学	1						
音声	1	進展	1						
科学	1	成長	1						
箇所	1	整合	1						
外部	1	整備	1						
概念	1	生活	1						
学務	1	組織	1						
漢方薬	1	操作	1						
観点	1	相当	1						
基準	1	送信	1						
機関	1	存在	1						
機器	1	体験	1						
技能	1	対策	1						
教師	1	担当	1						
教室	1	探究	1						
教授	1	注意	1						
教職	1	調理	1						
局長	1	直面	1						
繰り返し	1	通勤	1						
契機	1	提示	1						
形態	1	展開	1						
現実	1	展望	1						
現任	1	転換	1						
言葉	1	動作	1						
言葉遣 い	1	認知	1						
公共	1	納得	1						
広がり	1	把握	1						
高校	1	配慮	1						
合理	1	発声	1						
国家	1	発想	1						
根幹	1	発展	1						
最終	1	反映	1						
最初	1	否定	1						
在り方	1	飛躍	1						
残り	1	表示	1						
姿勢	1	不足	1						

名詞		サ変 名詞	形容 動詞	副詞 可能	動詞	形容詞	副詞	動詞 B	名詞 C
子ども	1	復習	1						
思い	1	変更	1						
指針	1	変容	1						
指標	1	編集	1						
枝葉	1	編成	1						
糸口	1	保護	1						
視覚	1	模索	1						
視線	1	予習	1						
試み	1	予想	1						
資格	1	予定	1						
資質	1	容赦	1						
事項	1	利用	1						
事務	1	練習	1						
自己流	1	連携	1						
自信	1	話	1						
実務	1								
主体	1								
習慣	1								
書類	1								
助け	1								
上記	1								
常々	1								
情報処 理	1								
条件	1								
職場	1								
進め方	1								
人材	1								
世界	1								
世紀	1								
生徒	1								
生理学	1								
専制	1								
前提	1								
素人	1								
相互	1								
即効	1								
他校	1								
多人数	1								
多分	1								
体質	1								
段階	1								
中学	1								
同士	1								
道程	1								
独りよが り	1								
内部	1								
能動	1								
倍速	1								
秘書	1								
百姓	1								
病理	1								
部長	1								

名詞	サ変名詞	形容動詞	副詞可能	動詞	形容詞	副詞	動詞 B	名詞 C
部分	1							
文献	1							
文字	1							
本校	1							
本質	1							
余裕	1							
様子	1							
要領	1							
利点	1							
立ち	1							
立場	1							

以上の出現単語について、一つひとつ、コンコーダンス機能を用いて、各単語がどのように使用されていたか分析した。ここでは、名詞で最も出現頻度が高かった「内容」についてその結果を説明する。

「学習内容」の理解度や難易度をたずねた質問に対するフリーアンサーであるから、「内容」の出現頻度が高いことは当然であるが、分析対象としたテキストの量との割合で言うと、名詞の中で 34 回は突出して多かった。それだけ、「内容」に関心をもって学修を進めた受講者が多いことがわかる。

「内容」の使われ方を見ると、授業映像や演習問題について「肯定的」「否定的」「肯定や否定とは無関係」の 3 パターンがある。

●肯定的

- ・ 内容に関しては、丁寧に解りやすく講義して頂いて、満足させて頂いています
- ・ この内容が中学や高校の先生方にもきちんと伝わるといいな
- ・ 内容は理解できたが、万遍なく注意を向けて聞く、否定しない、共感など、頭ではわかっているでも実践するのは難しいと思われる項目が多かったと感じた。
- ・ 今回の内容を忘れずに今後の面談などに活かしながら経験を積んでいきたいと思う。
- ・ 具体的な事例を交えて頂いた内容でした
- ・ 実際に発達障害の学生を対応する機会も増えている中、非常にわかりやすい内容で為になりました。
- ・ 今後に生かせるという意味では満足できた講義内容でした。
- ・ 発達障害について知識を整理することができました。内容もわかりやすく、該当する学生を対応する場合に役に立ちそう
- ・ 事例紹介が多くあったため、理解・納得がしやすい内容だったと思います。
- ・ 学校全体の文化や習慣も含めて IT 活用を考えるべきであるという第 3 回の講義は特に考えさせられる内容でした
- ・ 内容が、難しく、今後の自身の教員生活への「不安」を感じる面が多くあった。しかしチャンスがあれば IT に関しては積極的に学びたい。
- ・ 講義の内容は良く理解できた

- ・ スマートフォンで動画を視聴した際に資料の文字が小さく多少見にくい箇所はありましたが、内容は非常にわかりやすかったと思います。
 - ・ 現在の自身には直接関連はなかったが、重要な内容と考えるので、今後もしっかりと学びを継続したい。
 - ・ 今まで考えたことがない内容であり、今後は継続的に学びたい。
 - ・ フォローアップも始まり改めて問う講義の内容通り整備されているか事項をチェックしたい
 - ・ 講義内容に対して問う様な演習問題の方が良い。後半の演習問題は重たい。
- 否定的
- ・ 内容がつかみにくかったように感じた
 - ・ 内容が抽象的なため、具体的な動作に結びつけることが難しいと感じた
 - ・ 内容的に伝えるには思いますが、話をしている内容を理解するのに時間がかかりました。
 - ・ 科目で話された内容と、アンケートの記述内容に整合性を感じない
 - ・ もっと具体的な内容を望みます
 - ・ このことだけに関わってはいられない日々多忙な教師に負担を強いるだけの内容になってしまっている
 - ・ 内容が、大きな発想ややり方の転換を求めるものなので、もう少し具体性のある内容だとより良かった
- 肯定的でも否定的でもない
- ・ 専門学校の場合は、社会的な認知度が低いいためか、その学習内容について、企業よりあまり関心を持たれていない気がする
 - ・ 他校の情報公開 HP を閲覧すると内容が古いものも相当数あります。
 - ・ レポートのような内容まで求める必要はあるのか。

以上のような使われ方を観察して整理してみると、

わかりやすい、具体的、重要と感じる、今まで見たことがないなどの印象が、肯定的な評価を後押ししていることがわかる。

一方で、

抽象的（具体的でない）、つかみどころがないなどの印象が、否定的な評価につながっていることがわかる。

「具体的でわかりやすい」という肯定的意見と、「具体性がない」という否定的意見が混在しているが、具体的かどうかは、自分の期待感との相対で決まるし、複数の科目・講師にまたがった分析であるため、このようなことは起こるが、いずれにしても、具体性を強く求めて学修を進めた受講者が多いということがよくわかる分析結果となっている。

平成 30 年度文部科学省

職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進事業

職業実践専門課程の質保証・向上につながる
専修学校教職員資質能力向上プログラム開発

実証講座分析報告書

発行日 平成 31 年 3 月

発行者 一般社団法人専門職高等教育質保証機構

〒106-0032 東京都港区六本木 6-2-33 六本木ヒルズノースタワーアネックス 3F

■ 禁無断転載 ■